

2022年12月期 決算説明会

Investor Briefing  
Shikoku Kasei HD Corp.  
For FY 12 / 2022 (9months)

---

2023年2月15日

四国化成ホールディングス株式会社  
(東証プライム4099)

## 1. 連結業績の概要

Consolidated Financial Results

## 2. 2023年12月期の通期見通し

Financial Forecast for the Fiscal Year Ending 2023

## 3. 長期ビジョンChallenge 1000について

‘Challenge 1000’ Long-Term Vision

## 4. ホールディングス体制への移行について

Transition to Holding company

## 5. 参考資料

Appendix

# 1. 連結業績の概要

---

## Consolidated Financial Results

前年同一期間比(4月～12月)で売上高～当期純利益まで過去最高を記録

(百万円)  
Million yen

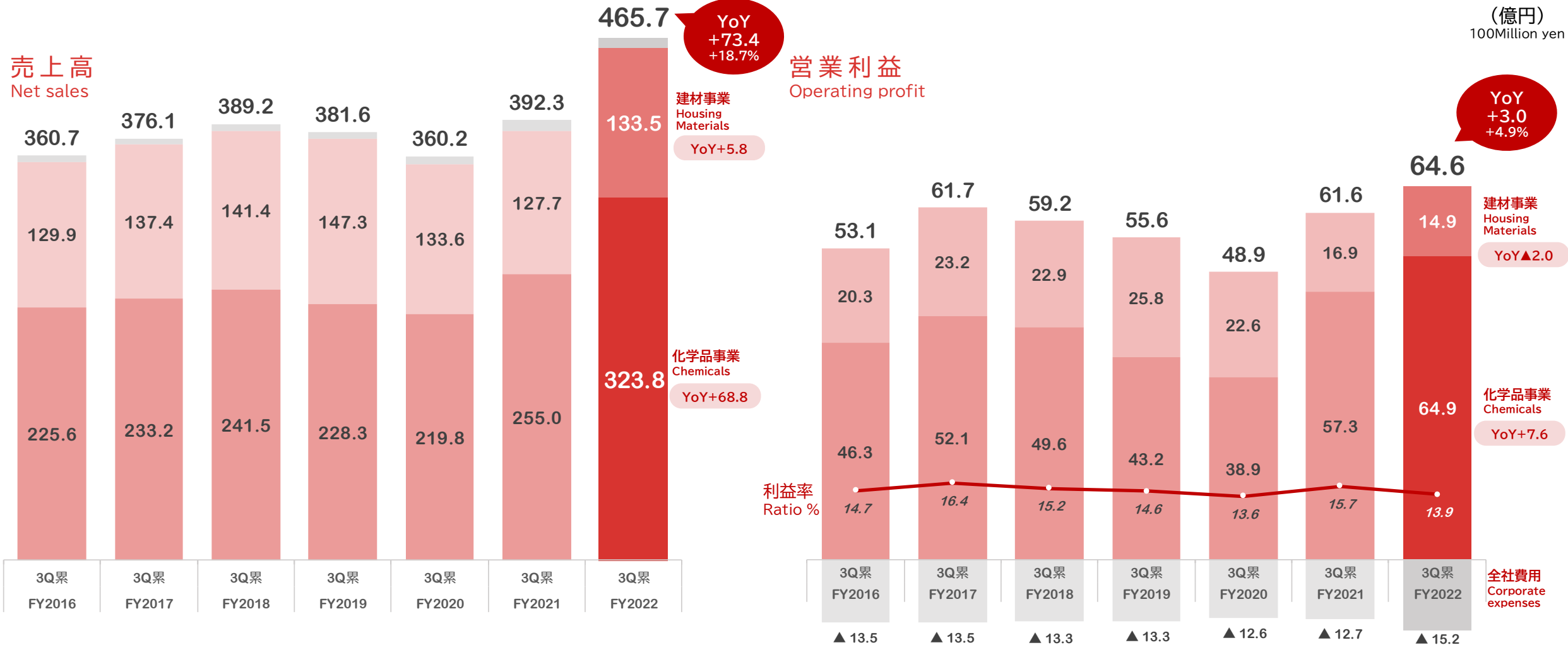
	前年比較※ 2021年 4月～12月	2022年12月期 (9カ月決算)	増減 Change ／ 増減率 Rate	備考 Remarks
売上高 Net sales	39,229	46,566	+7,337 +18.7%	・化学品事業の北米向け輸出が伸長し、大幅増収
営業利益 Operating profit	6,158	6,462	+304 +4.9%	・仕入価格や物流費の高騰を価格転嫁し、増益を達成
経常利益 Ordinary profit	6,721	7,270	+549 +8.2%	・為替差益 334 (YoY+224) Foreign exchange gains
親会社株主に帰属する 当期純利益 Profit attributable to owners of parent	4,794	4,997	+203 +4.2%	・減損損失 ▲400 (YoY▲400) Impairment losses
為替レート (PL換算用) Exchange rate	1USD 111円 1EUR 131円 1RMB 17.1円	1USD 135円 1EUR 137円 1RMB 19.8円	売上高+31億円 営業利益+14億円	・前年対比増減に含まれるPL円換算時の影響額 外貨建取引における換算レート変動の影響のみを抽出しております。 円貨建取引においても実質的に為替レートの変動に影響を受ける取引は多くありますが、 含まれておりません。

※当期は事業年度の末日を変更し、2022年4月1日から12月31日までの9カ月間を連結対象期間とした変則決算となっております。  
このため前年比較にあたっては、前年度の実績を当年度と同一期間(4月～12月の第3四半期累計期間)で表示しております。

# 売上高と営業利益の推移 (通期累計)

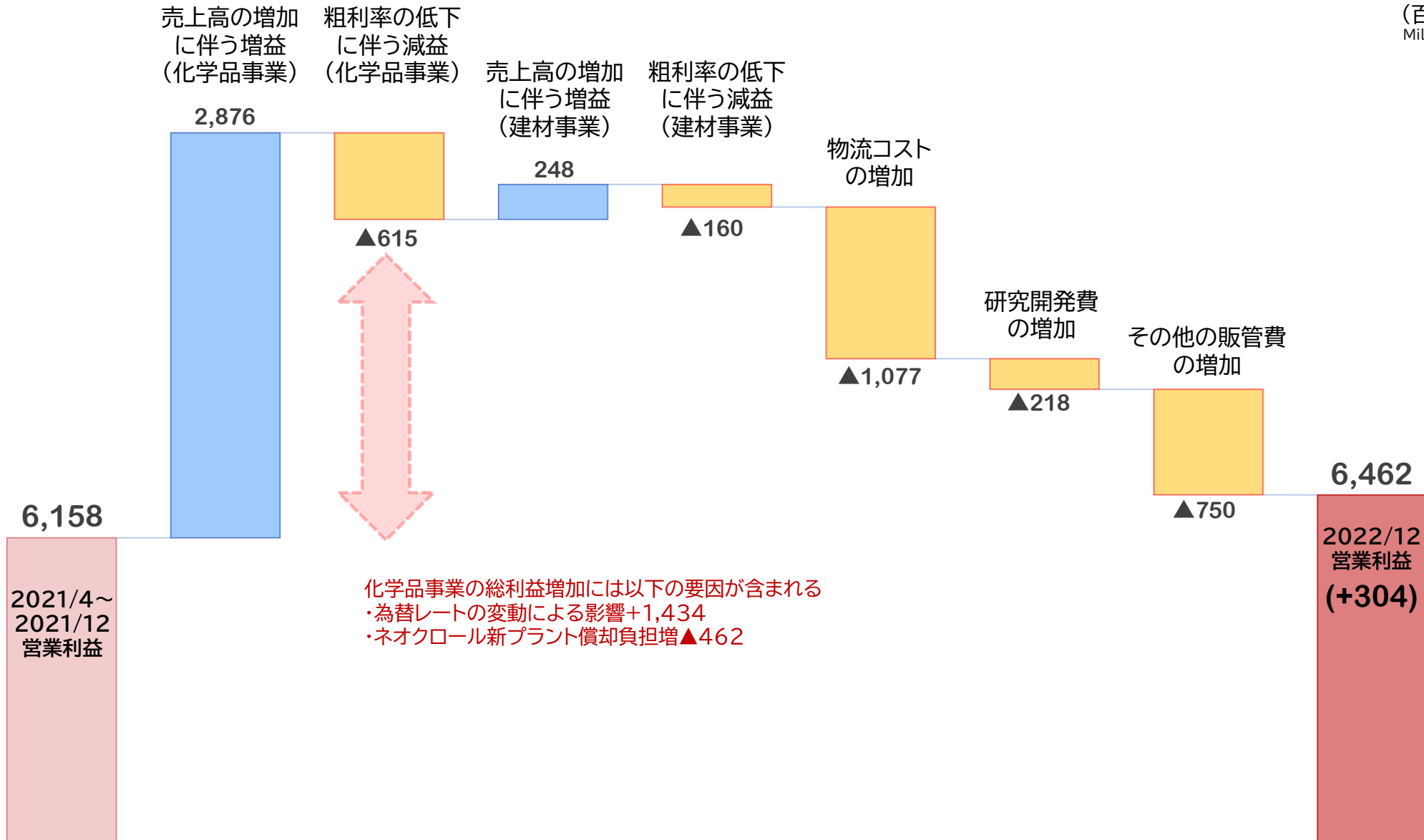
Trends in Net sales and Operating profit (9 months)

売上高は化学品事業を中心に大幅増(化+68.8 建+5.8)  
 営業利益はコスト増で利益率は低下するものの増益は確保(化+7.6 建▲2.0)



※前年度以前の実績は当年度と同一期間(4月~12月の第3四半期累計期間)で表示しております。

(百万円)  
Million yen



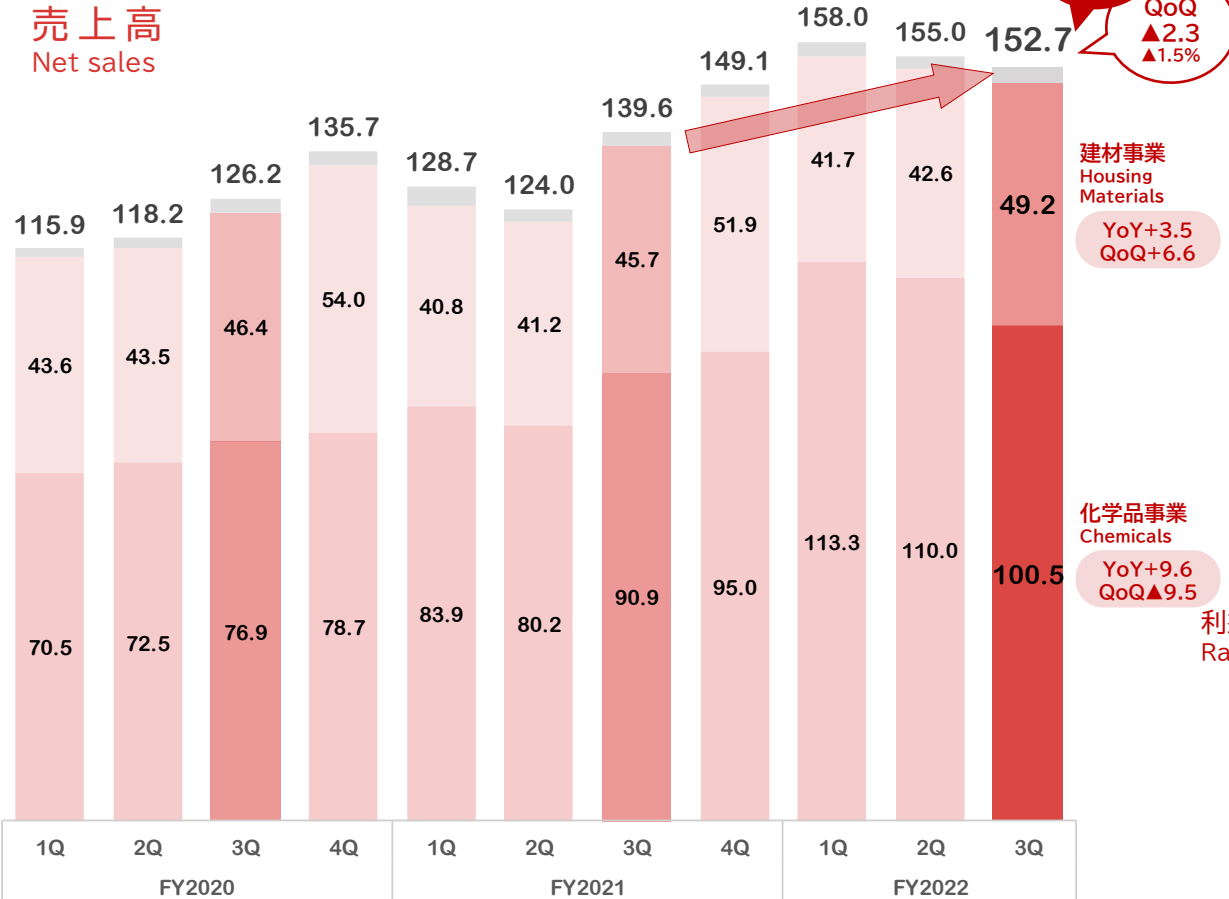
# 売上高と営業利益の推移（四半期対比）

# Trends in Net sales and Operating profit (3 months)

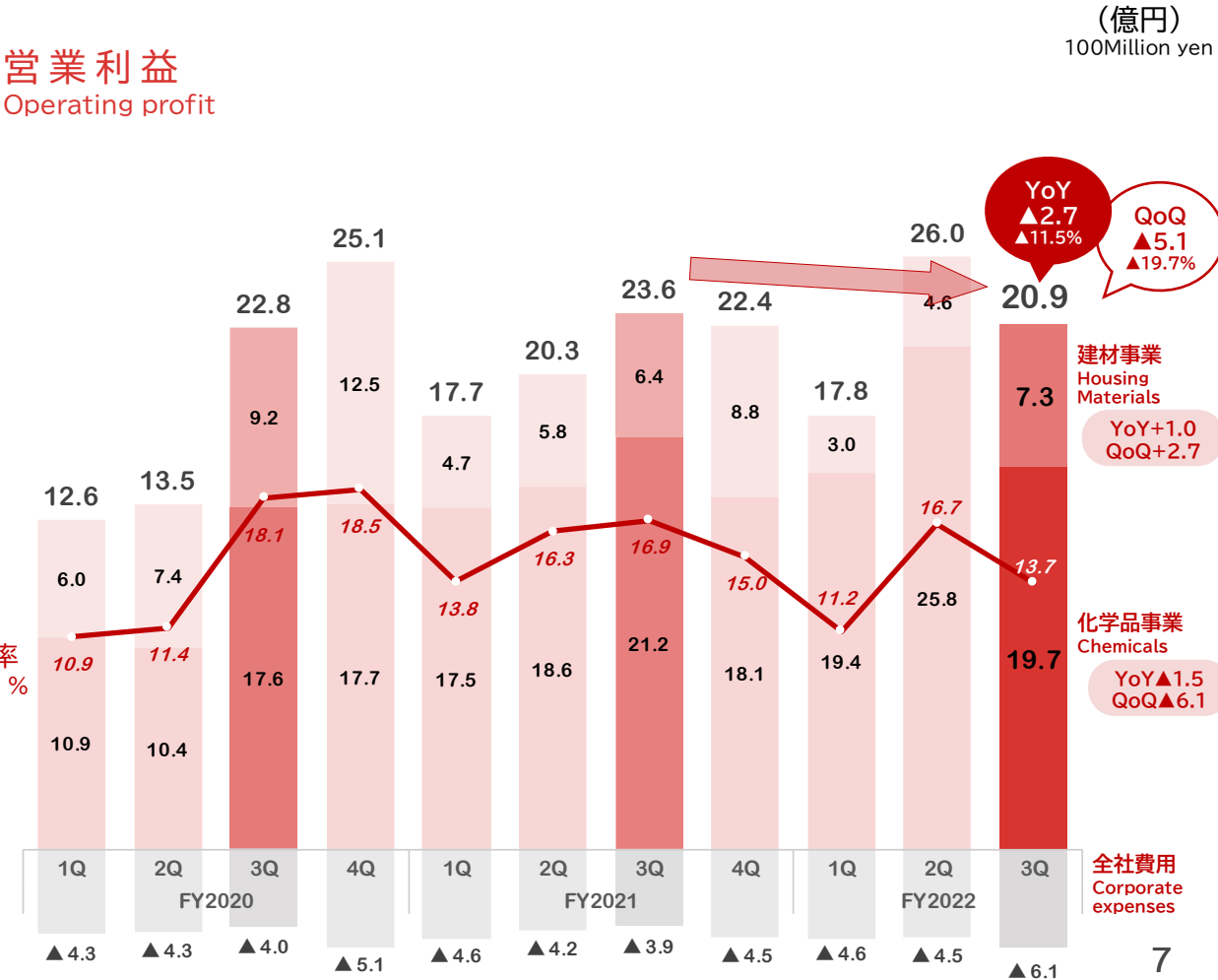
・全社でYoYで+13.1億円の増収。当期期初からの化学品事業の増収基調は続いている(+9.6)が、上期苦戦した建材も回復傾向が見られつつある(+3.5)。  
 ・一方QoQでは▲2.3億円の減収となり、化学品事業が市況悪化により成長にややブレーキがかかった(▲9.5)。

・全社でYoYで▲2.7億円の減益。化学品事業では償却負担等のコスト増で減益(▲1.5)となるも、建材事業は売上高の回復を受け利益も増益(+1.0)。  
 ・一方QoQでは▲5.1億円の減益となり、化学品事業が売上減に伴い減益(▲6.1)。

## 売上高 Net sales



## 営業利益 Operating profit



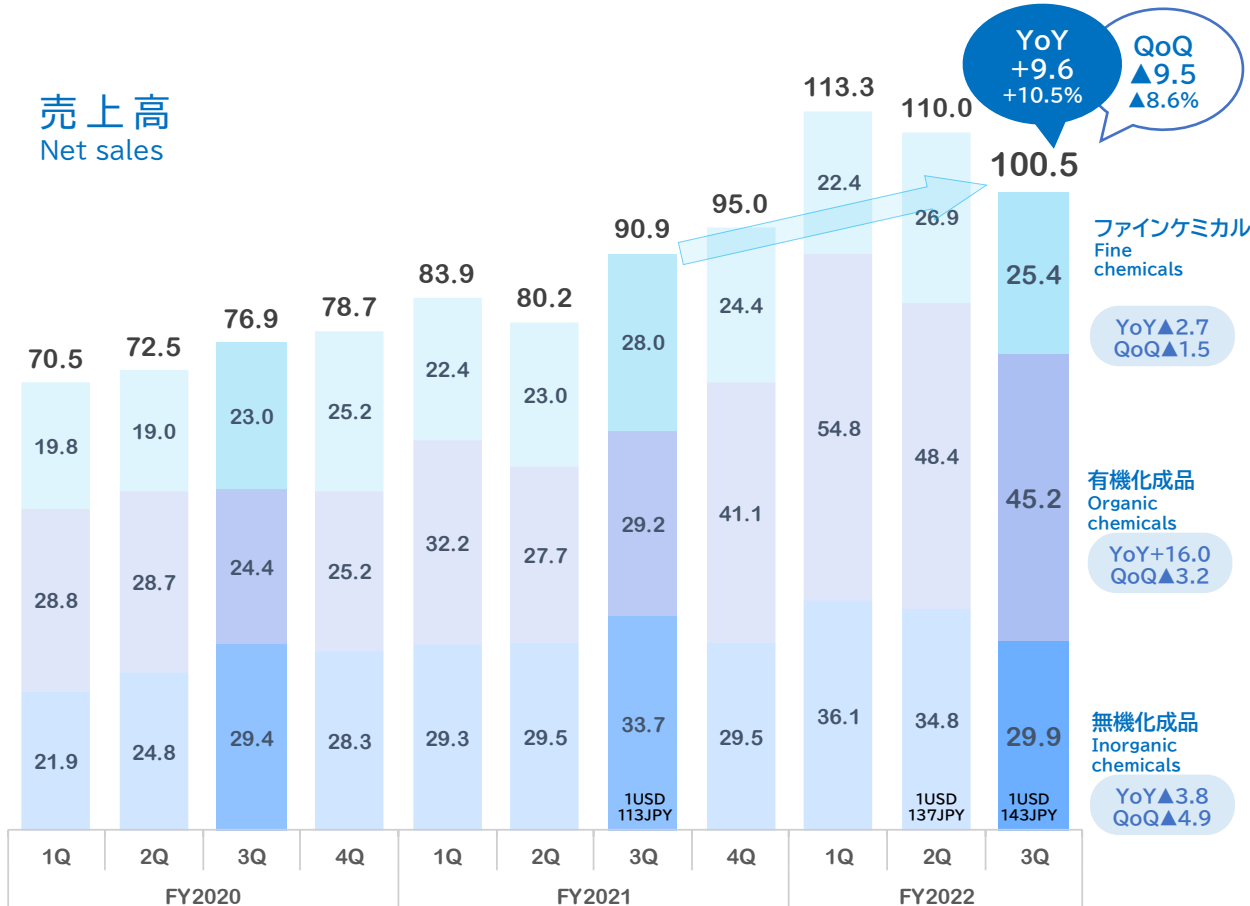
# セグメント別の概況 化学品事業（四半期対比）

## Operating results by segment : Chemicals (3 months)

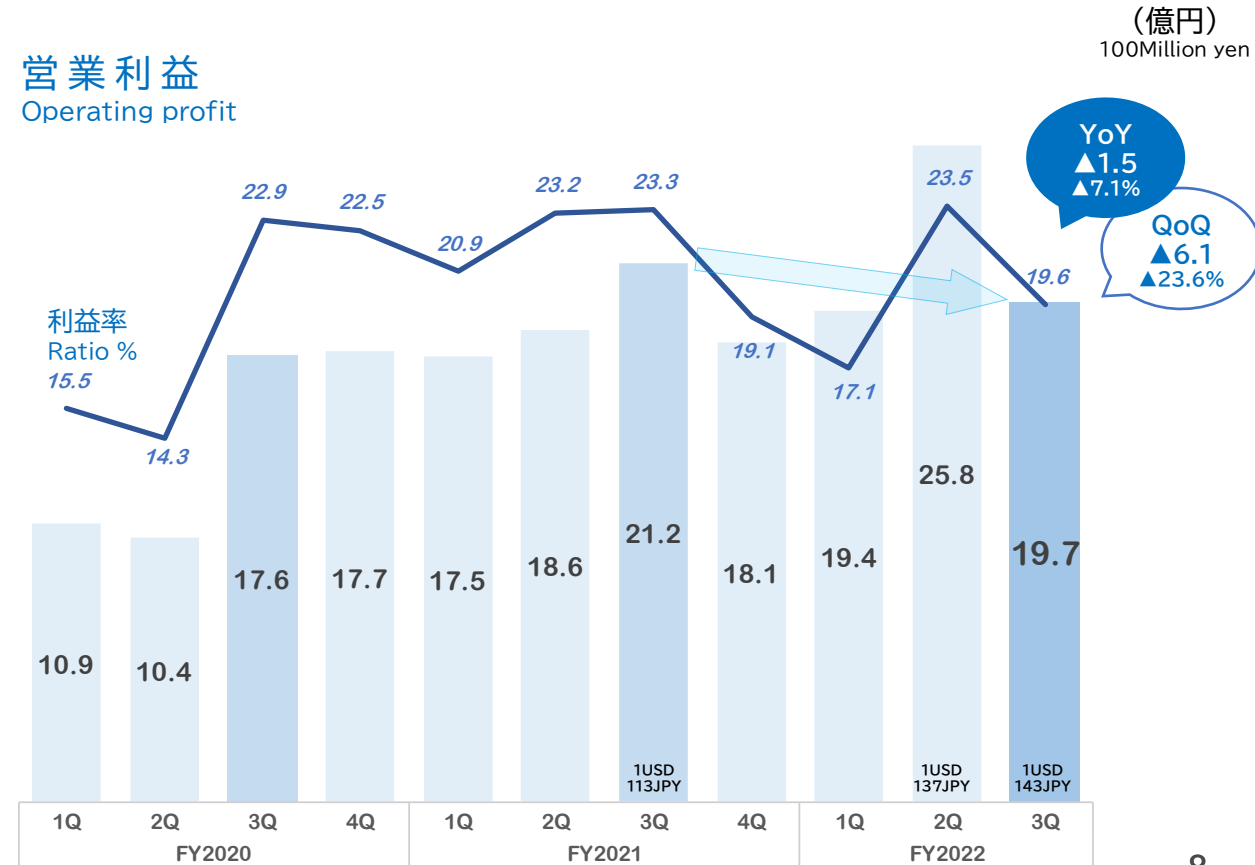
- 無機化学品はYoYで▲3.8億円の減収。不溶性硫黄が世界的なタイヤ需要の縮小を受けたタイヤ生産の稼働低下で受注が低調に推移した。
- 有機化学品はYoYで+16.0億円の増収。北米向け出荷が依然好調で最大生産量を出荷、インフレ環境下で価格転嫁に成功し、販売単価は3Qも高値圏を維持。
- ファインケミカルはYoYで▲2.7億円の減収。半導体、エレクトロニクス市況の悪化、中国でのコロナ感染爆発の影響を受けたものの、開発品(GliCAP、半導体プロセス材料等)は順調に拡大中。
- 為替の影響は、YoYで+10億円(113→143)、QoQで+2億円(137→143)程度。

- 為替の円安は追い風でYoYで+3.7億円、QoQで+0.7億円程度の増収要因。
- 原材料費の高騰を受け、有機化学品をはじめ全事業で価格転嫁を進め、販売単価は大幅に上昇した。また物流費の高騰もピークアウトしつつある。よって限界利益率はコスト増の中でも概ね前期並みを維持した。
- 一方、固定費(内部コスト)では、竣工したNEO2022新プラントの償却費負担や、吉成工場再構築のための設備移設費用等が発生し、YoY対比で▲1.5億円と若干の減収となった。

売上高  
Net sales



営業利益  
Operating profit





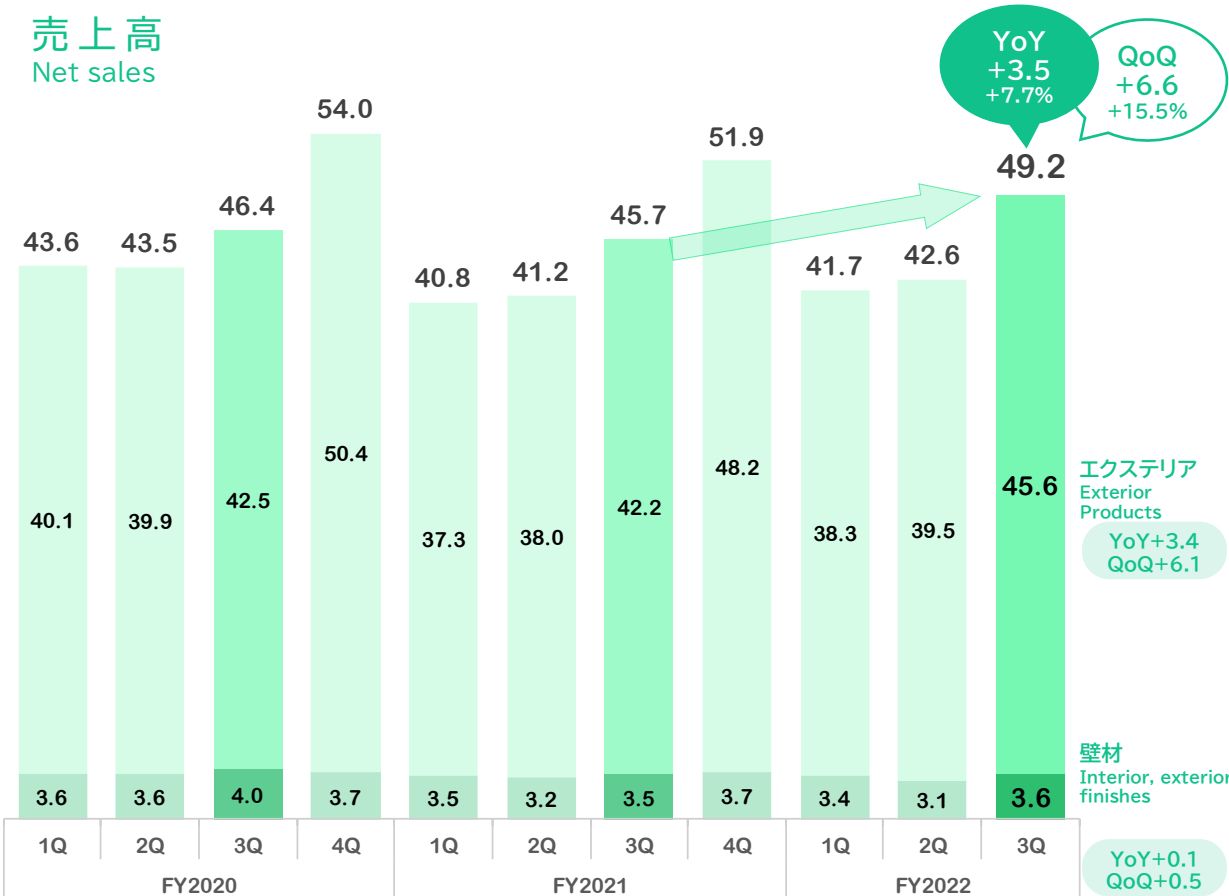
# セグメント別の概況 建材事業（四半期対比）

# Operating results by segment : Housing Materials (3 months)

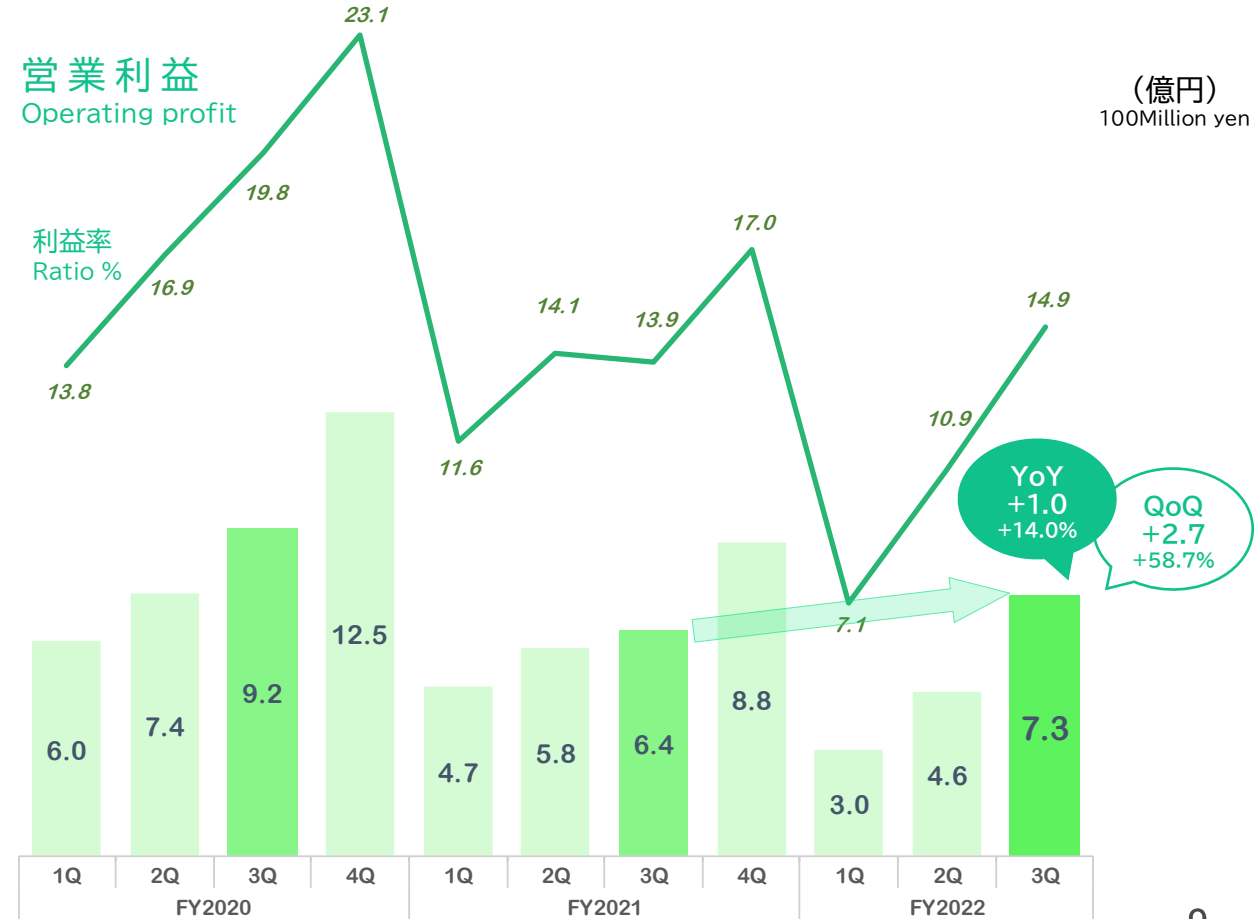
- ・建材事業全体で、YoYで+3.5億円、7.7%の増収を達成。
- ・壁材はYoYで+0.1億円の増収、QoQで+0.5億円の増収といずれも上回り、長期低落傾向から底打ちし、下げ止まりの傾向が出てきた。
- ・エクステリアは、YoYで+3.4億円の増収。アルミ地金価格高騰を受けた4月からの価格改定効果に加え、物量面でも住宅分野を中心に荷動きが回復傾向にあり、単価・数量の両面から増収となった。なお、QoQでの増収は季節要因含む。

- ・建材事業全体で、YoYで+1.0億円、14.0%の増益を達成。
- ・エクステリアの価格改定効果の浸透と販売数量回復が最大の要因。上期は値上げ浸透や駆け込み需要反動減等で苦戦したが、反転傾向にある。
- ・原料価格は、原油由来の樹脂部材等は高騰を続けているが、アルミ地金相場はこのところ安定しており、概ね前期と同条件での仕入となった。
- ・固定費では壁材設備の移転に伴う修繕費用等が一時的に発生したが、営業利益全体では吸収出来た。

売上高  
Net sales



営業利益  
Operating profit



## 2. 2023年12月期の通期見通し

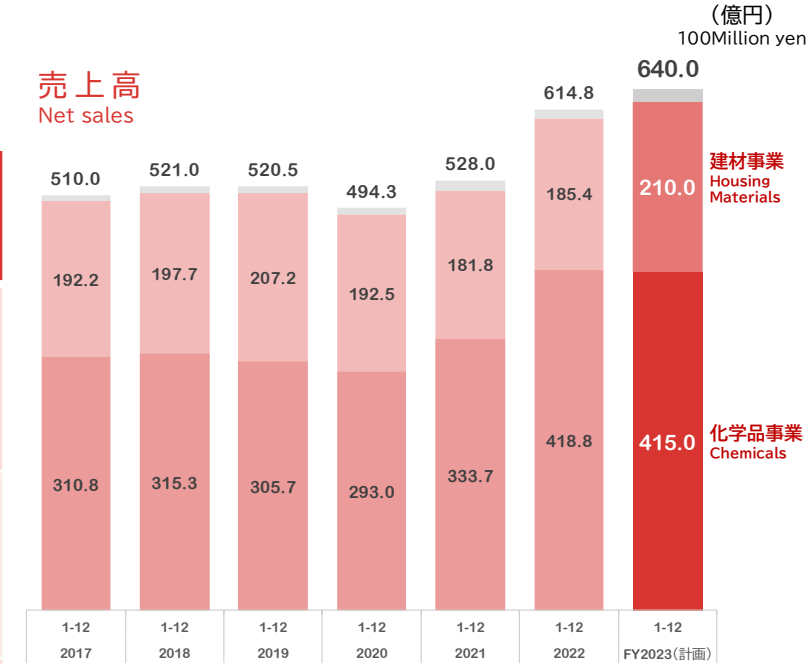
---

**Financial Forecast  
for the Fiscal Year Ending 2023**

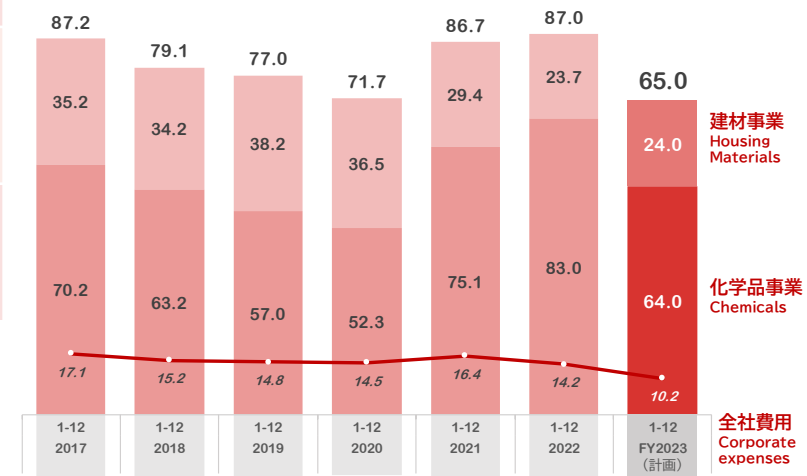
	前年比較※ 2022年 1月~12月	2023年12月期 (1月~12月)	増減 Change ／ 増減率 Rate	備考 Remark
売上高 Net sales	<b>61,475</b> (化学品)41,876 (建材)18,543	<b>64,000</b> (化学品)41,500 (建材)21,000	+2,525 +4.1%	・化学品事業は、不溶性硫黄の市況悪化や、塩素化イソシアヌル酸の需給の緩み等を見込み、横ばい。 ・建材事業は、2023年1月からの価格改定による増収を見込む。
営業利益 Operating profit	<b>8,703</b> (化学品)8,301 (建材)2,373	<b>6,500</b> (化学品)6,400 (建材)2,400	▲2,203 ▲25.3%	・化学品事業は、販売単価の低下や固定費の増加(償却費負担等)で減益を見込む。 ・建材事業は、資材価格の値上がりで限界利益率が低下し、横ばい。
経常利益 Ordinary profit	<b>9,840</b>	<b>7,000</b>	▲2,840 ▲28.9%	・前期為替差益による増益効果の剥落によりマイナス (前年同期間為替差益+583)
親会社株主に帰属する 当期純利益 Profit attributable to owners of parent	<b>7,081</b>	<b>4,900</b>	▲2,181 ▲30.8%	
為替レート (PL換算用) Exchange rate	1USD 128円 1EUR 135円 1RMB 19.4円	1USD 125円 1EUR 135円 1RMB 18円		・為替レート1円の変動に対し、売上高で約1.5億円、営業利益で0.7億円程度の影響。

(百万円)  
Million yen

売上高  
Net sales



営業利益  
Operating profit



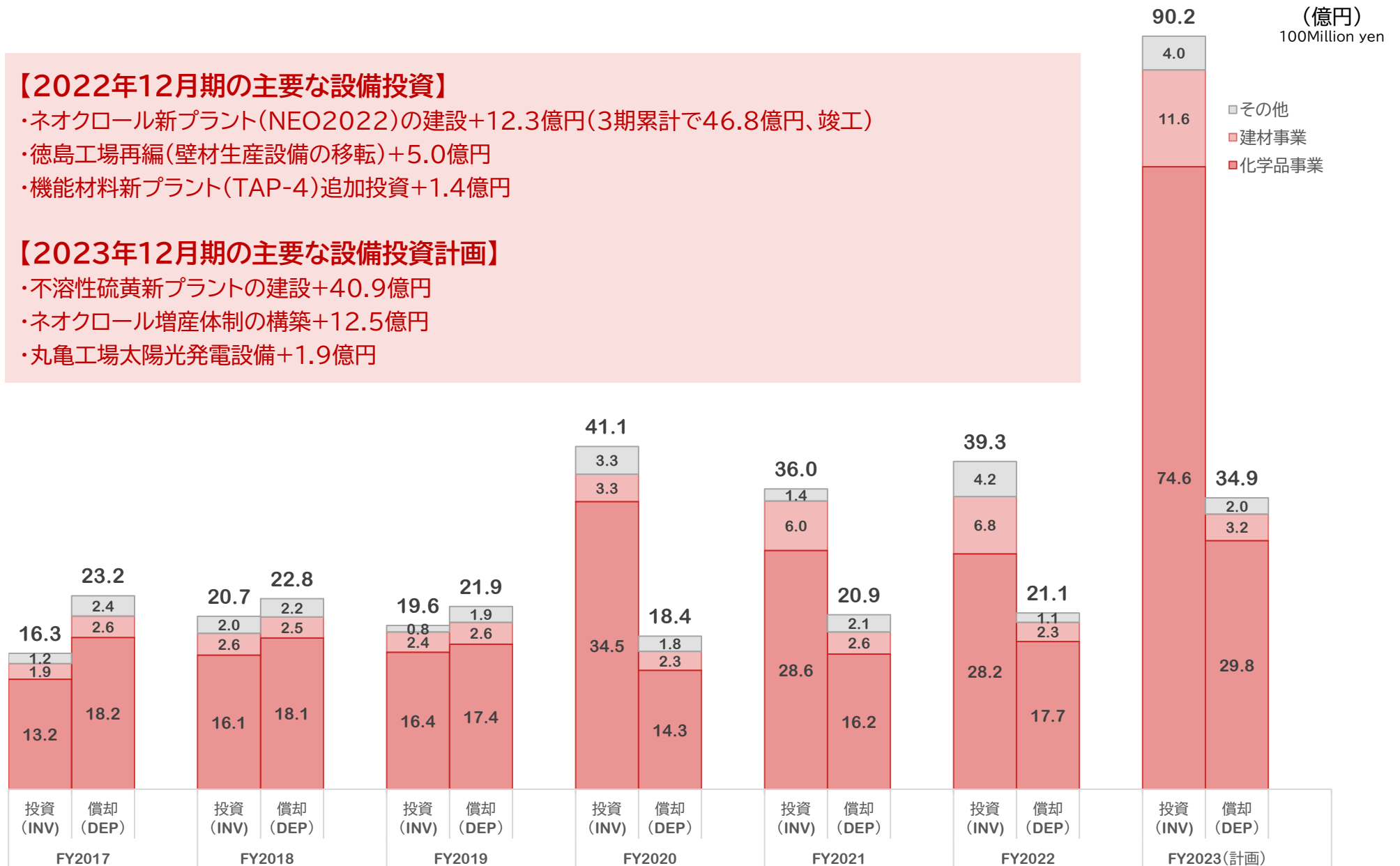
※前年比較及びグラフの表示は、前年度以前の実績を当年度と同一期間(1月~12月)に調整しております。

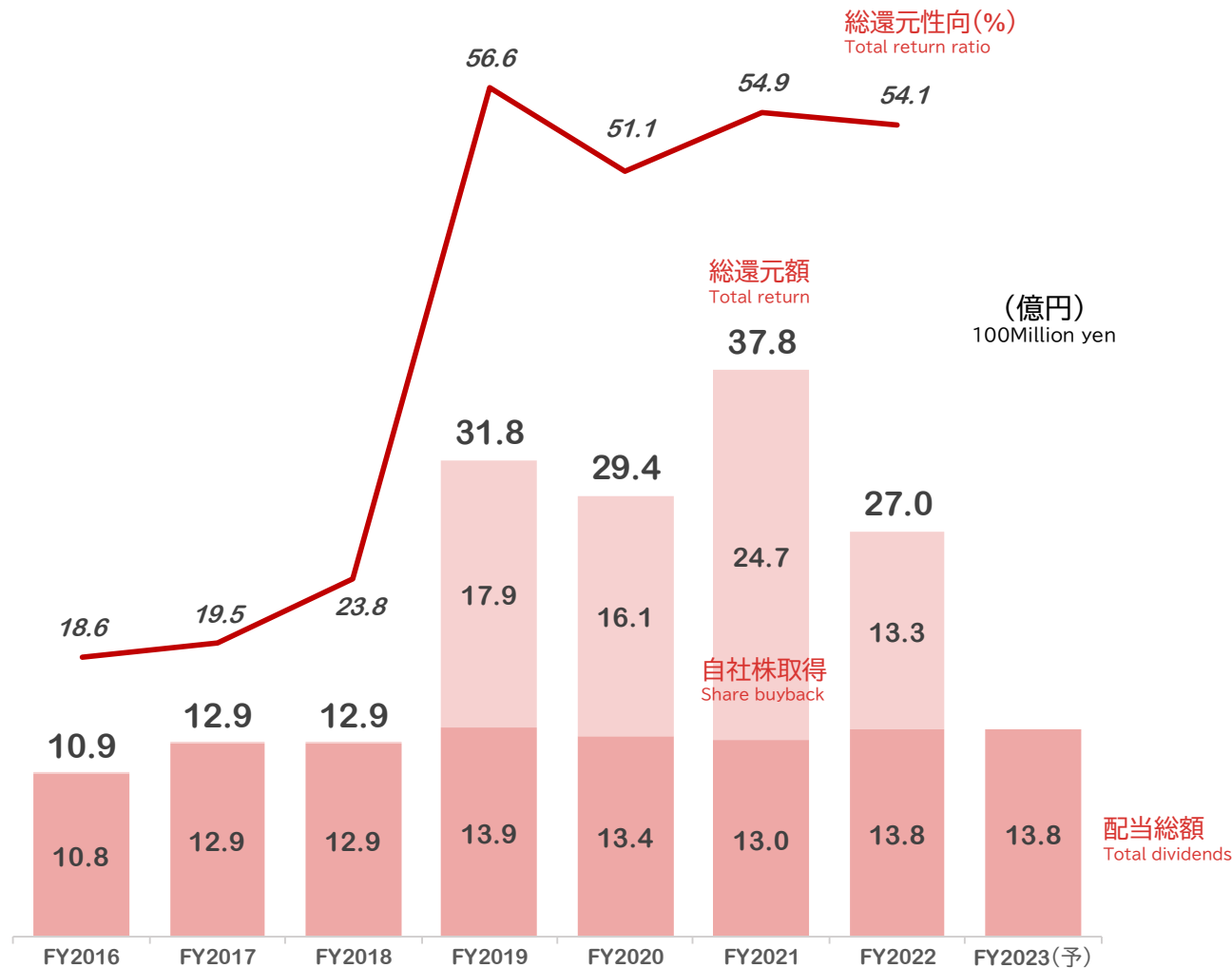
## 【2022年12月期の主要な設備投資】

- ・ネオクロール新プラント(NEO2022)の建設+12.3億円(3期累計で46.8億円、竣工)
- ・徳島工場再編(壁材生産設備の移転)+5.0億円
- ・機能材料新プラント(TAP-4)追加投資+1.4億円

## 【2023年12月期の主要な設備投資計画】

- ・不溶性硫黄新プラントの建設+40.9億円
- ・ネオクロール増産体制の構築+12.5億円
- ・丸亀工場太陽光発電設備+1.9億円





### 【株主還元方針】

・2030年に至る長期ビジョン「Challenge 1000」の期間中において「連結業績を基準として、総還元性向50%」を目指します。

### 【2022年12月期の株主還元政策】

・1株当たり24円(中間12円 期末12円)に加え、創業75周年を迎えたことから記念配当として2円増配し1株当たり26円(中間13円・期末13円)としました。  
 ・2022年8月29日、ToSTNeT-3で13.3億円の自社株買いを行いました。配当(13.8億円)と合わせた総還元額は27億円、総還元性向は54.1%となりました。

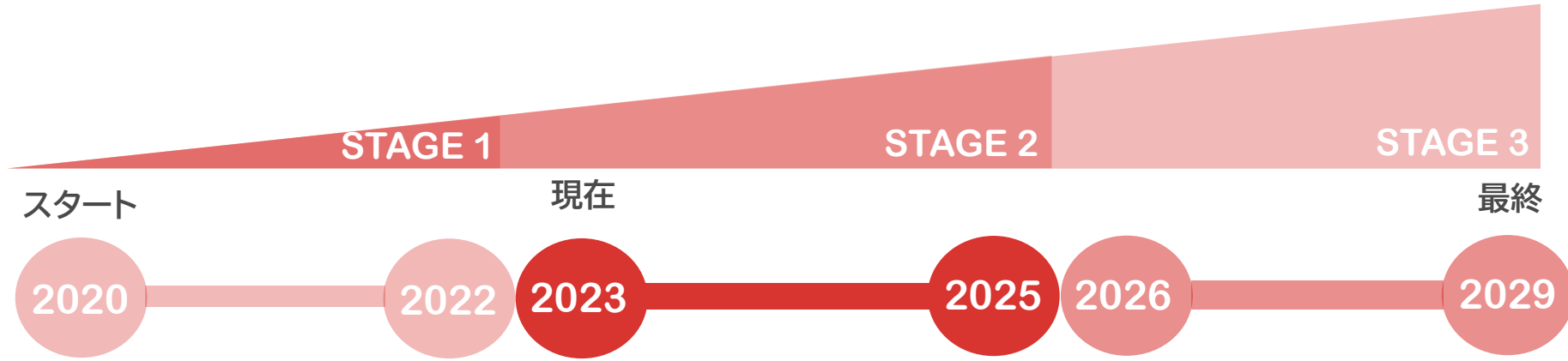
### 【2023年12月期の株主還元政策(予想)】

・前期記念配当部分の2円を普通配当に組み込み、1株当たり26円(中間13円・期末13円)を維持する計画です。  
 ・また、株主還元方針を前提に機動的に自社株取得を行い、余剰資本や政策保有株式の圧縮を進め、株式価値の向上に努めてまいります。

### 3. 長期ビジョン ‘Challenge 1000’ について

---

## ‘Challenge 1000’ Long-Term Vision



2030年にありたい姿

**独創力で、“一歩先行く提案”型企業へ**  
 独創的なアイデアで社会課題を解決し、世界をリードする

**財務目標**

- 売上高 1,000億円
- 営業利益 150億円
- ROE 10%

**戦略の柱**

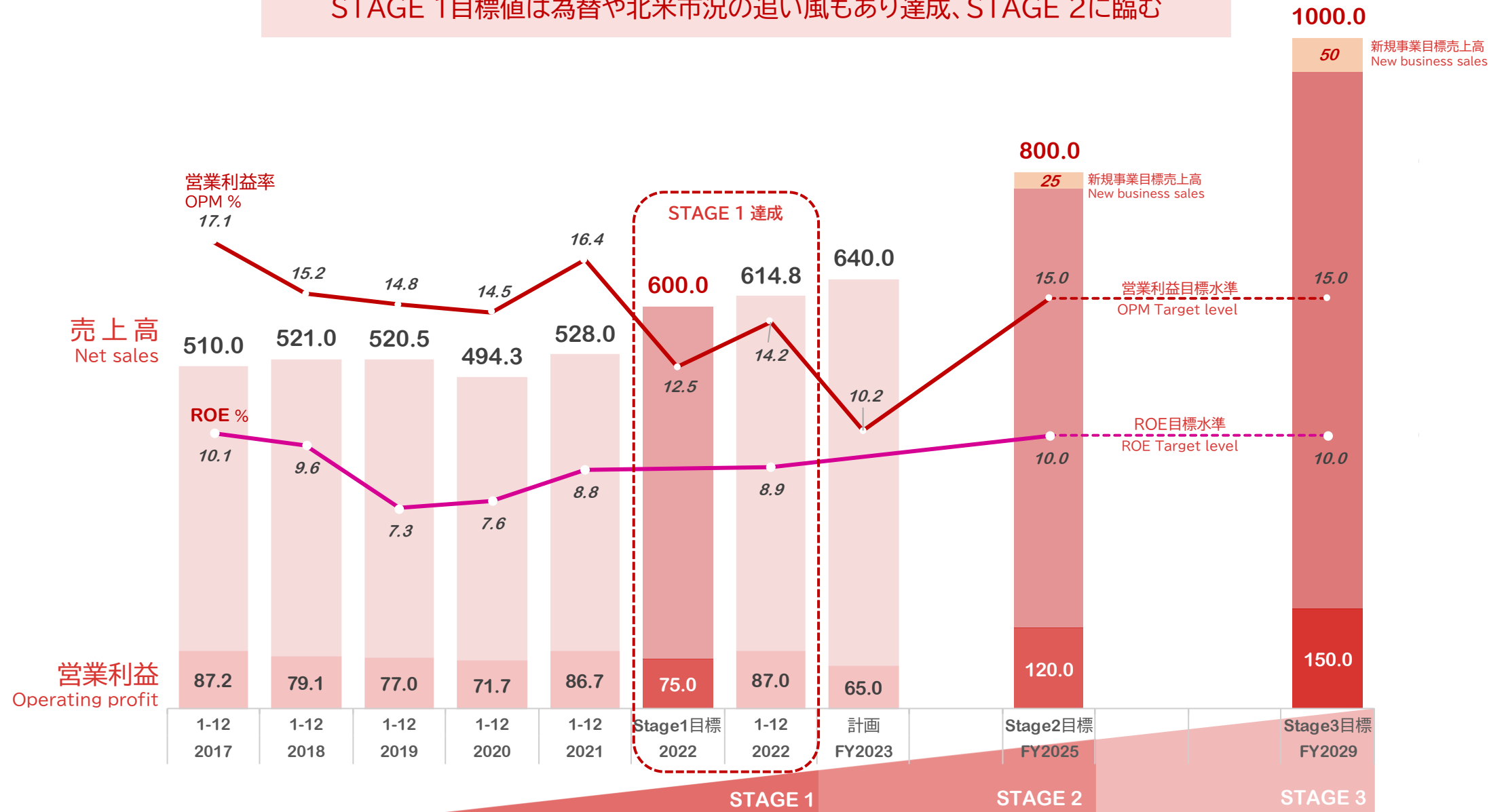
- 事業変革方針
- 全社変革方針
- 積極投資
- SDGsの達成

**四方よし**

- 顧客
- 従業員
- 株主
- 社会

(億円)  
100Million yen

STAGE 1目標値は為替や北米市況の追い風もあり達成、STAGE 2に臨む



※グラフの表示は、前年度以前の実績を2023年度と同一期間(1月~12月)に調整しております。



## 「STAGE 1」の進捗 (FY2020~FY2022)

### 財務目標 ◆「STAGE 1」の目標に対し、計画通りの進捗

2022/4-12 (FY2022) 売上高465億円 営業利益64億円  
 2022/1-3 (FY2021 4Q) 売上高149億円 営業利益22億円  
 2022/1-12換算 売上高614億円 営業利益87億円・・・STAGE 1目標達成

### 戦略の柱 ◆事業領域拡大、計画通りの積極投資

- ・自社ブランド『WASHMANIA』立ち上げ  
化学品事業初のBtoC向け商品発売
- ・ファインケミカル製品の生産設備『TAP-4』  
(25億円:2021年7月竣工)
- ・塩素化イソシアヌル酸の生産設備『NEO2022』  
(50億円:2022年4月竣工)
- ・丸亀工場 太陽光発電設備の導入



### 四方よし ◆各ステークホルダーへの貢献活動を実行

- ・自社株買いの実施、プライム市場へ上場(株主)
- ・従業員持株会を通じ株式付与、75周年記念賞与(従業員)
- ・瀬戸内国際芸術祭に「パークレット」を現物協賛(社会)
- ・丸亀市と「にぎわいあるまちづくりに関する連携協定」の締結(社会)



## 「STAGE 2」の展望 (FY2023~2025)

### 財務目標 ◆「Challenge 1000」策定当初目標から変更なし

「STAGE 2」初年度(FY2023) 売上高640億円 営業利益65億円  
 「STAGE 2」最終年度(FY2025) 売上高800億円 営業利益120億円

### 戦略の柱 ◆積極的な投資により、更なる成長を目指す

- ・BtoC(川下化)やM&Aの検討など事業領域の拡大
- ・高効率生産体制の構築と生産・販売拠点の最適化の推進
- ・塩素化イソシアヌル酸の生産能力を増強  
(投資総額16億円:2023年10月稼働開始予定)
- ・不溶性硫黄の生産設備  
(投資総額 45億円:2024年10月竣工予定)
- ・丸亀工場 太陽光発電設備の増設

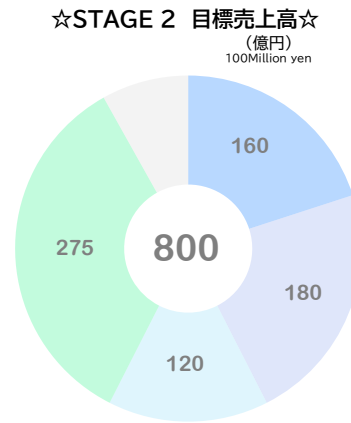
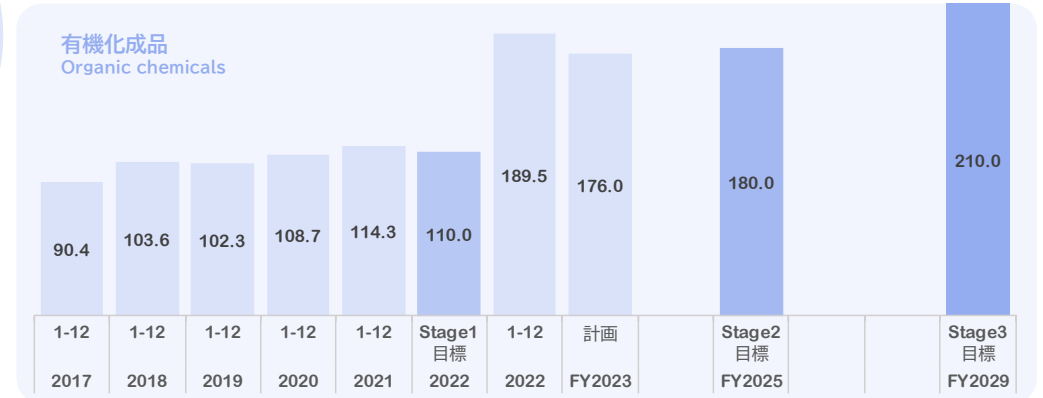
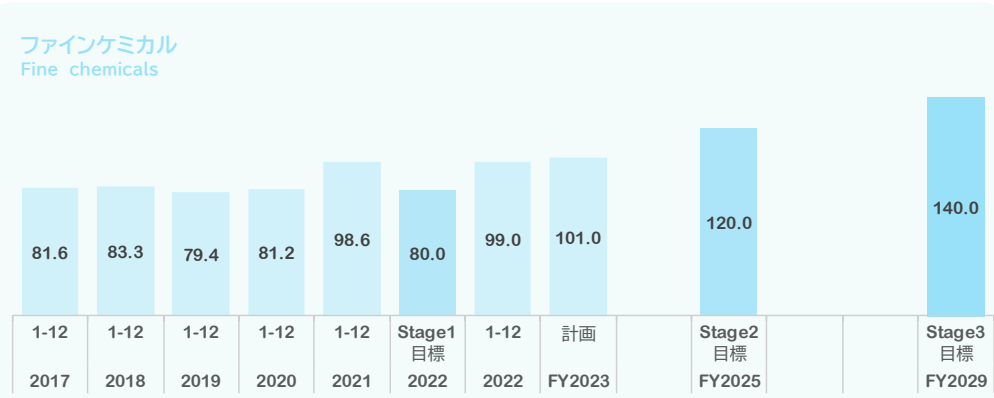
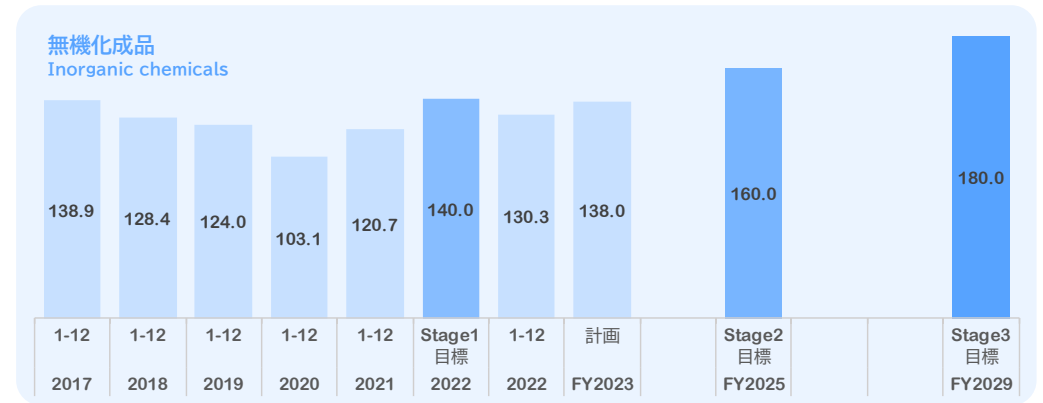
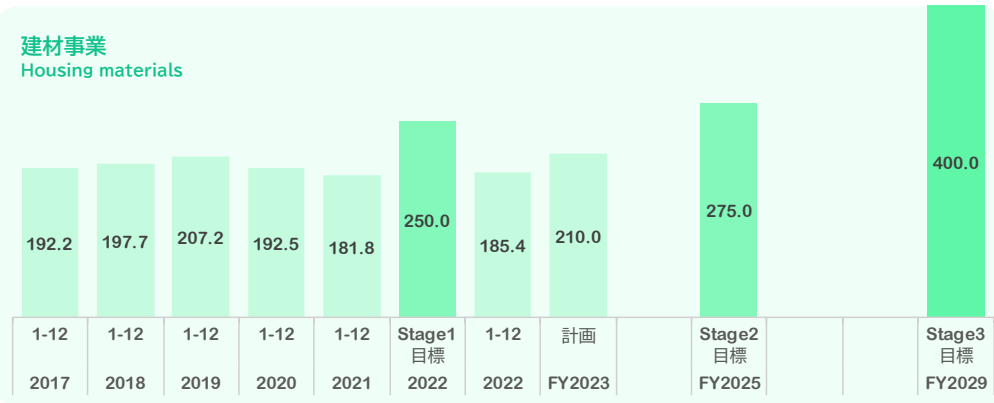
### 四方よし ◆「四方よし」の活動方針を継続

- ・株主優待制度の拡充、統合報告書の発行(株主)
- ・香川丸亀国際ハーフマラソン大会への特別協賛  
(2023年2月5日開催)



# STAGE 2 事業変革方針・計数目標

## STAGE 2 Priority Measures and Quantitative Targets by segment



セグメント	重点施策	STAGE 2目標
無機化成品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製造技術の向上と拡販に向けた量産体制の整備</li> <li>・硫黄起点の事業領域拡大</li> </ul>	売上高160億円
有機化成品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産拠点拡大と生産能力増強</li> <li>・自社ブランド製品の拡充とマーケティング活動の強化</li> </ul>	売上高180億円
ファインケミカル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機能材料:半導体プロセス材料の早期実績の拡大。樹脂硬化剤・樹脂改質剤の新規用途開拓</li> <li>・タフエース:他社と差別化した品質による販売の拡大</li> <li>・GliCAP:サーバー基板及びパッケージ基板用途での採用・実績化</li> </ul>	売上高120億円
建材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高効率生産体制の構築</li> <li>・顧客ニーズの変化に対応した新規商材の投入による事業領域の拡大</li> </ul>	売上高275億円

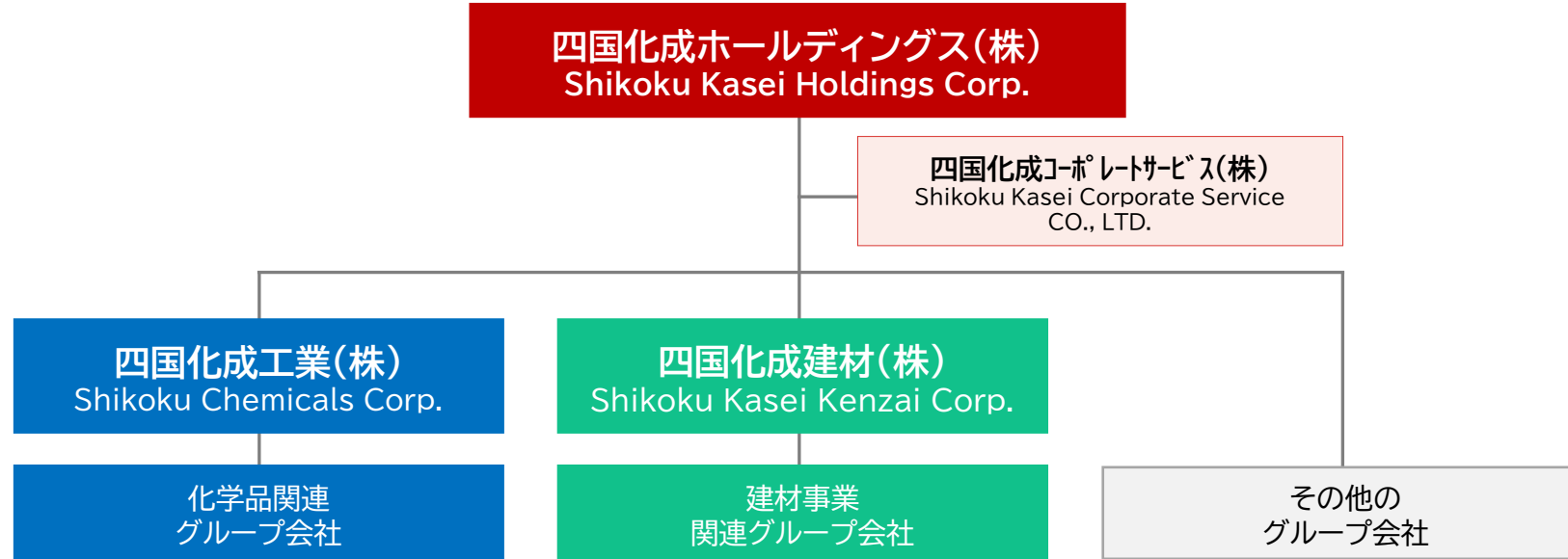
※グラフの表示は、前年度以前の実績を2023年度と同一期間(1月~12月)に調整しております。

## 4. ホールディングス体制への移行について

---

Transition to Holding company

## ■ 2023年1月1日以降のグループ経営体制



## 化成/Kasei

- ① 徳に感化されてよいほうに改めること。
- ② 形を変えて他のものになること。
- ③ 化合して別の物質になること。
- ④ 育てて、成長を遂げさせること。

【英】Transformation , Change

ご清聴ありがとうございました

## 5. 参考資料

---

## Appendix

## 会社概要

---

## Corporate Profile

2022年12月31日現在

- 商 号 四国化成ホールディングス株式会社
- 証券コード 4099(東証プライム市場上場) 業種:化学
- 創 立 1947年10月10日
- 本社所在地 香川県丸亀市
- 社 長 渡邊 充範
- 資 本 金 68億67百万円
- 従 業 員 数 1,223名(連結)
- 売 上 高 465億円(連結・2022年12月期)



## 事業概要

## 化学品事業（四国化成工業株式会社）

## ● 無機化成品



タイヤ原料等

## ● 有機化成品


 プール・浄化槽の  
殺菌消毒剤等

## ● ファインケミカル


 電子部品用途薬剤  
(プリント配線板向け薬剤、  
樹脂改質剤等)

## 建材事業（四国化成建材株式会社）

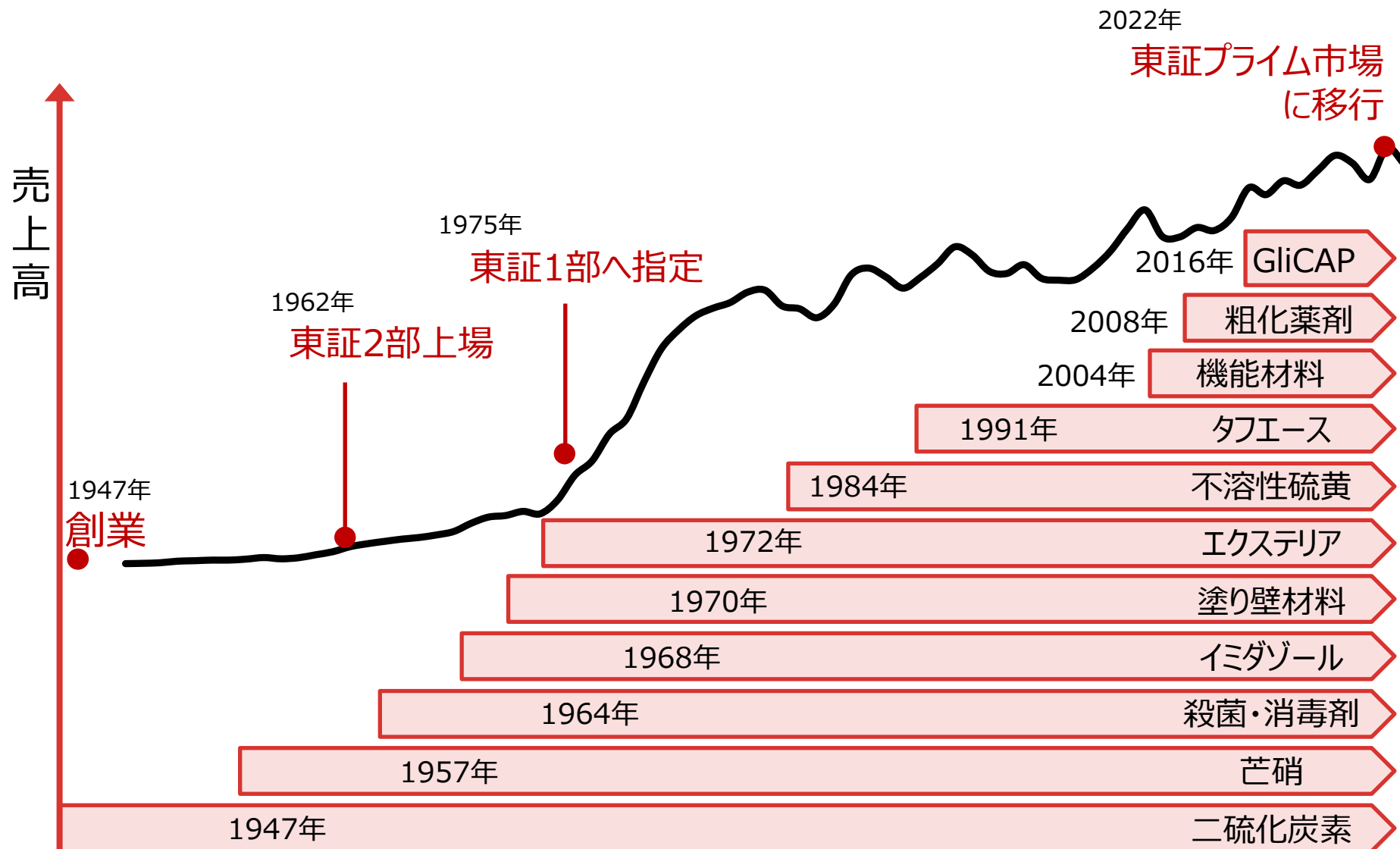
## ● 壁材


 壁材  
(内装材、外装材等)

## ● エクステリア


 エクステリア  
(カーポート、門扉等)

1947年10月	香川県丸亀市において、 <b>二硫化炭素(⇒無機化成品)</b> の製造を目的に資本金200万円をもって設立
1957年10月	徳島第一工場（現・徳島工場吉成事業所）建設、 <b>中性無水芒硝(⇒無機化成品)</b> の操業を開始
1962年 6月	徳島第二工場（現・徳島工場北島事業所）建設
10月	東京証券取引所第2部に上場
1964年 5月	徳島第二工場において、 <b>塩素化イソシアヌル酸(⇒有機化成品)</b> の初の国産化に踏み切り、操業を開始
1969年12月	プリント配線板などの電子部品用水溶性防錆剤（後の <b>タフエース(⇒ファインケミカル)</b> ）の販売を開始
1970年 9月	建材部門進出を図り、徳島第二工場において <b>内装壁材（JULUX）</b> の生産を開始
1972年 6月	<b>アコーデオン門扉(⇒エクステリア)</b> の製造・販売を開始
1975年 3月	東京・大阪両証券取引所第1部に指定
7月	香川県多度津町に多度津工場建設
11月	徳島第二工場において、 <b>イミダゾール(⇒ファインケミカル)</b> の本格生産を開始（'68年より試験生産）
1981年 6月	ロサンゼルスに駐在員事務所開設（85年にS I Cとして現地法人化）
1984年 7月	丸亀工場において、 <b>不溶性硫黄(⇒無機化成品)</b> の生産を開始
1992年 9月	香川県宇多津町に研究センター（現・R & Dセンター）開設
1995年10月	埼玉県嵐山町に嵐山工場建設
2006年 7月	上海に現地法人 四国化成（上海）貿易有限公司 を設立
2008年	プリント配線板用 <b>粗化薬剤(⇒ファインケミカル)</b> の販売を開始、丸亀工場にタフエース新プラント建設
2013年 8月	徳島工場に機能材料生産設備TAP-3(Tokushima Advanced Chemicals Plant-3)を建設
2014年 9月	国内唯一の二硫化炭素生産会社である日本硫炭工業（株）を連結子会社化
2015年 4月	台湾及びシンガポールに事務所開設
2017年 4月	日本工機（株）を子会社化
2021年 7月	徳島工場に機能材料生産設備TAP-4(Tokushima Advanced Chemicals Plant-4)を建設
2022年 4月	東証の市場区分再編に伴い、プライム市場に移行
4月	徳島工場に塩素化イソシアヌル酸の新生産設備（NEO2022）を建設
2023年 1月	持株会社に移行し、社名を四国化成ホールディングスに変更、化学品と建材事業、間接部門を分社化



化学品事業

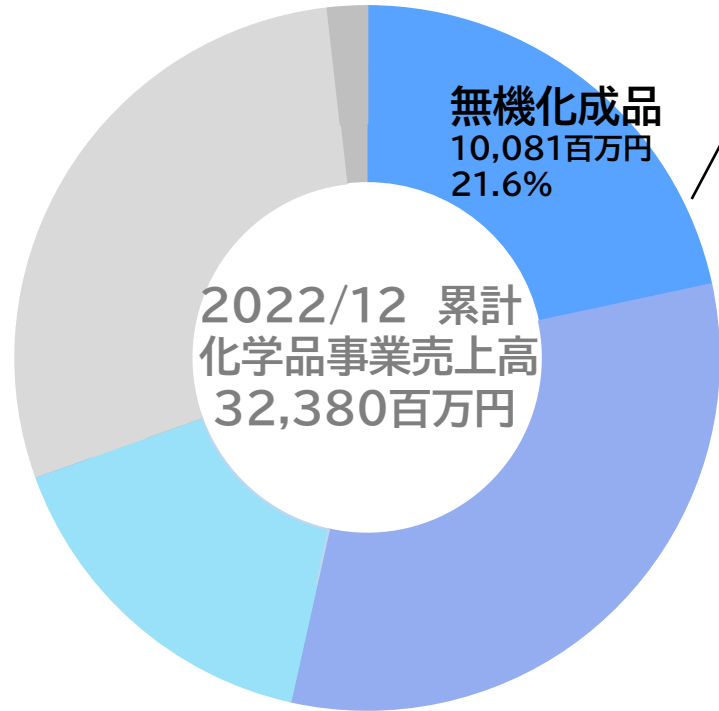
---

Chemicals Operations

化学品事業  
1. 無機化成品

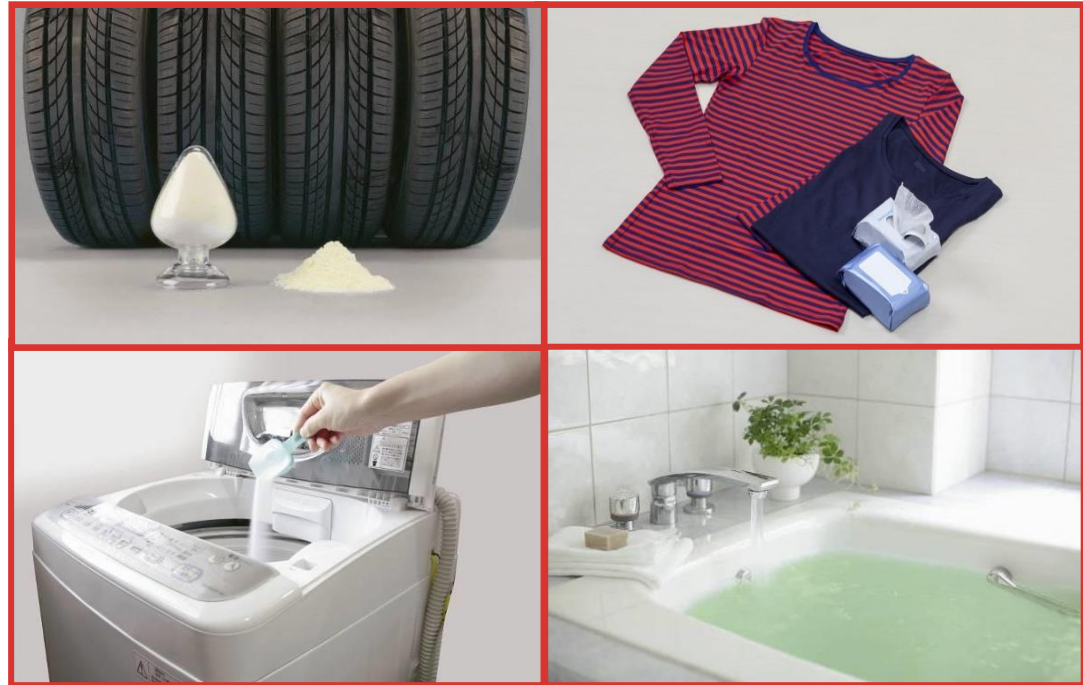
---

Chemicals Operations  
Inorganic Chemicals



【主要製品】

- 二硫化炭素 … 化学繊維レーヨンの必須材料
- 不溶性硫黄 … ゴム加硫剤
- 無水芒硝 … 入浴剤の温浴効果促進剤  
合成洗剤の洗浄助剤

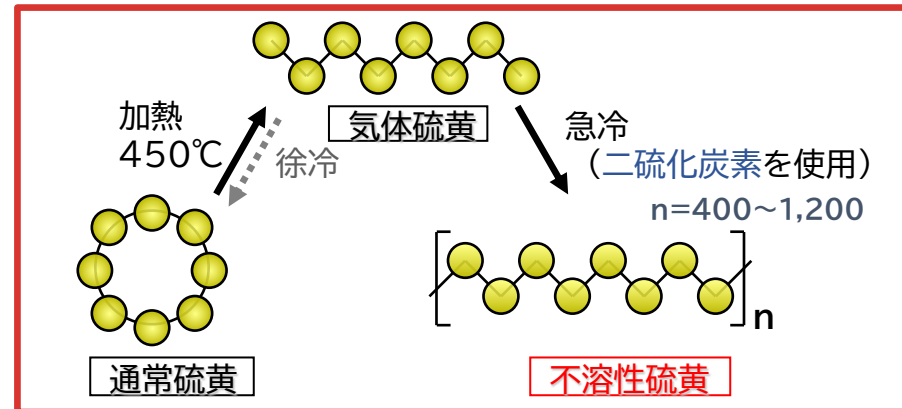


- 用途：ゴム加硫剤
- 主要顧客：国内外のタイヤメーカー
- 原料のゴムは硬い状態であり、硫黄を加えて加熱（加硫）することで、伸びて縮む 特性を持つようになる。
- ラジアルタイヤの生産工程で通常硫黄を使用した場合、ゴムの表面に硫黄がブルーミング（析出）し、ゴムの接着不良の原因となる。  
不溶性硫黄は、原料ゴムに分散状態にいるため、ブルーミングを抑制できる。
- 不溶性硫黄の生産には、創業製品である「二硫化炭素」の高い取り扱い技術が必要である。
- 不溶性硫黄は、タイヤメーカーから高い品質が求められている。
- 2024年、新プラントの増設により生産能力を約1.2倍に増強予定である。

## ■ 不溶性硫黄



## ■ 不溶性硫黄の製造工程（模式図）

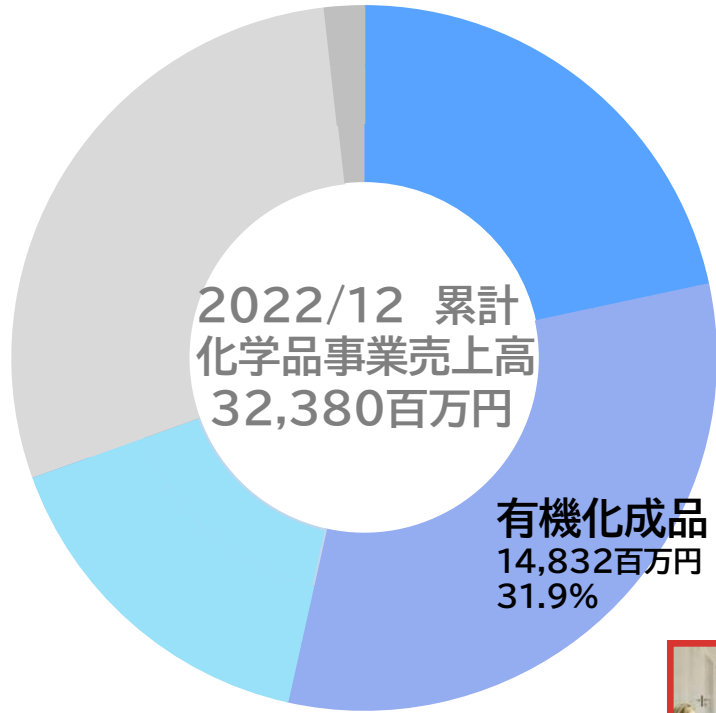


化学品事業  
2. 有機化成品

---

Chemicals Operations  
Organic Chemicals





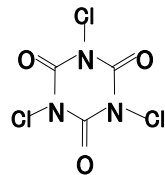
【主要製品】

- 塩素化イソシアヌル酸…プール・浄化槽の殺菌消毒剤(ネオクロール) サニタリー製品
- ハイポルカ …排水・汚泥処理剤



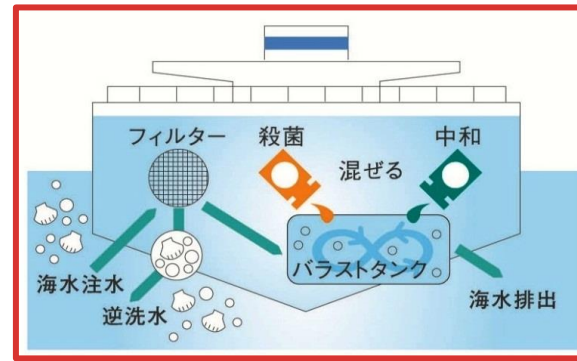
- プール用殺菌消毒剤「ネオクロール」は、他のプール用殺菌剤に比べ紫外線による分解が少なく、屋外プールでも長持ちする点や、長期間保存しても品質低下がほとんどない点が特長。
- 用途 : プール・浄化槽の殺菌消毒剤、業務用風呂・家庭用の塩素系衛生処理剤
- 主要顧客 : プール業者、学校、一般消費者(米国)
- プールや業務用風呂の自動塩素管理システム「ナピックス」で強みを持つ。
- 塩素が持つ強力な酸化・漂白・洗浄力を活かして、業務用・家庭用のサニタリー分野や、バラスト水（船底に積む重石として用いられる海水）処理、飲料水用途、各種施設での衛生管理用途などの様々な分野に展開中。
- 2022年10月、自社ブランド製品「WASHMANIA(ウォッシュマニア)」洗濯槽クリーナーを販売し、BtoC市場へ事業領域を拡大。

## ■ ネオクロール 製品群



塩素化イソシアヌル酸

## ■ バラスト水殺菌のイメージ



「ネオクロールマリーン」荷姿

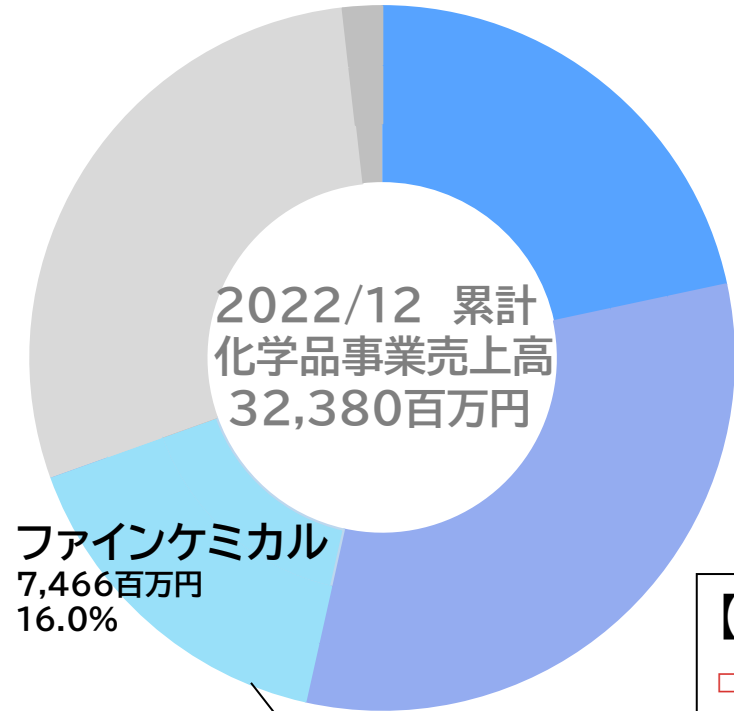
## ■ WASHMANIA



化学品事業  
3. ファインケミカル

---

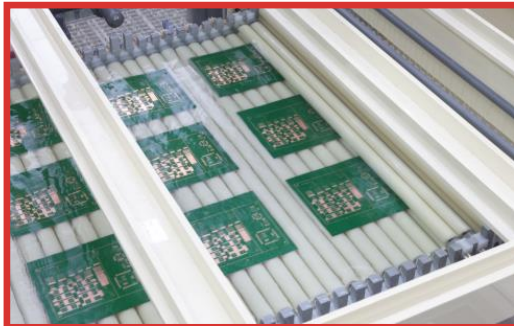
Chemicals Operations  
Fine Chemicals



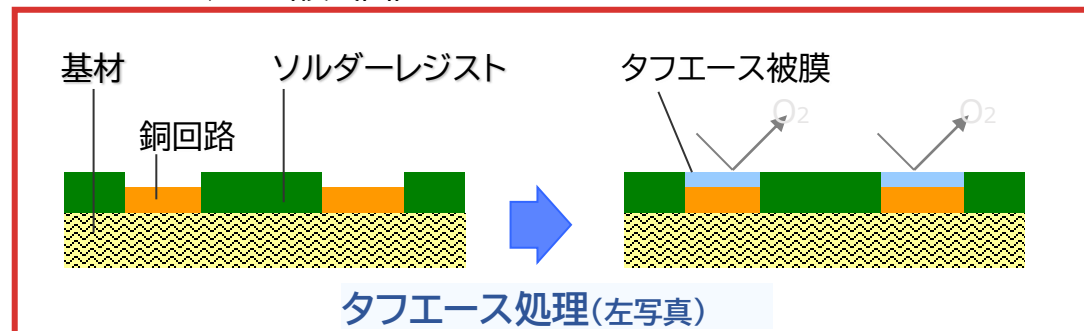
- 【主要製品】**
- タフエース・GliCAP …プリント配線板表面処理剤
  - 機能材料 …イミダゾール類（エポキシ樹脂の硬化剤）  
樹脂改質剤・硬化剤など
  - セイク …耐熱電線ワニスの原料
  - インク類 …ソルダーレジスト

- 用途 : プリント配線板向け水溶性防錆剤  
〔OSP:Organic Solderability Preservative〕
- 主要顧客 : 世界のプリント配線板メーカー
- **プリント配線板**の銅回路上に有機皮膜を形成し、露出した銅回路が酸化するのを防ぐことで、実装工程で良好なはんだ付け性を確保し、信頼性の高い電子部品製造に貢献する。
- OSPの主成分は、銅へ選択的に化学反応する特性を持つイミダゾール。  
当社はイミダゾールメーカーでもあり、OSPの要求特性にあわせて主成分を合成できる点が強み。
- プリント配線板の防錆剤は、OSPの他にも金属めっき等があるが、OSP比率は過半を占め、なお上昇中。
- タフエースは主要電機メーカーの材料指定を多数取得し業界標準に。  
他社に先んじて環境性能を高め、**自動車用電装部品** や **半導体パッケージ基板**でも採用実績が拡大中。

■ タフエース処理槽を通るプリント配線板



■ タフエース処理 (模式図)



## ■ GliCAP® (グリキャップ)

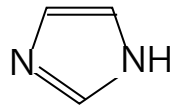
- プリント配線板の銅回路と樹脂の密着性向上剤。
- 従来は、銅を粗化(エッチング)することで表面に凹凸をつくり、“機械的結合”(アンカー効果)で樹脂との密着性を向上させてきた。
- 半導体の高性能化につれて、高性能な半導体を実装するパッケージ基板では、銅回路幅が超微細化し、銅の粗化が困難になりつつある。
- 第5世代移動通信システム(5G)の実用化に向けて、更なる高速化が求められる高周波用サーバー基板では、高周波領域で銅表面の凹凸形状により伝送損失が生じるため、平滑な表面の銅回路が求められている。
- GliCAP® は、「樹脂と強く結合する性質」と「銅と強く結合する性質」の両特性をあわせ持ち、銅表面を粗化することなく、“化学的”に密着力を向上できる。
- 高周波用サーバー基板では既に採用され、パッケージ基板でも採用や量産化に向けた評価が進んでいる。また、将来的にはプリント配線板以外の市場への応用も視野に入れている。



- 用途:エポキシ樹脂※の硬化剤・硬化促進剤
- 主要顧客:樹脂材料メーカー、電子部品メーカー
- イミダゾールはエポキシ樹脂・ウレタン樹脂などの硬化剤、医農薬原料、防錆剤など各種工業薬剤の原料などに幅広く使用される。
- 当社売上高の大半はエポキシ樹脂硬化剤用途。  
イミダゾールを配合したエポキシ樹脂は、電気・電子部品用途に最適な特性を持つ。
- 多品種のイミダゾールを揃え、ユーザーの求める多様な硬化速度・性能に対応。
- これまで競合品(非イミダゾール系)が強かった分野・用途でも、製品の性能向上のため顧客がイミダゾールを新たに採用する動きがある。

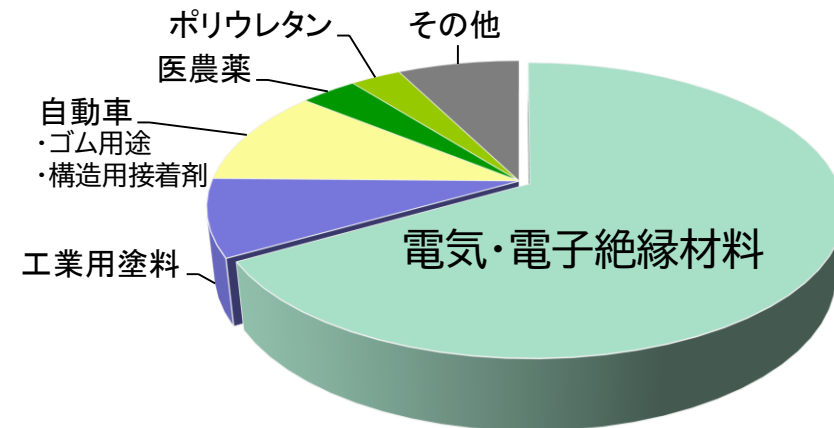
※ エポキシ樹脂:分子の末端に反応しやすいエポキシ基をもつ樹脂状の化合物、およびその化合物と硬化剤と重合させて生じる熱硬化性の合成樹脂。接着剤のほか、プリント配線板、塗料などに用いられる。

■ エポキシ樹脂が使われる電子部品(例)



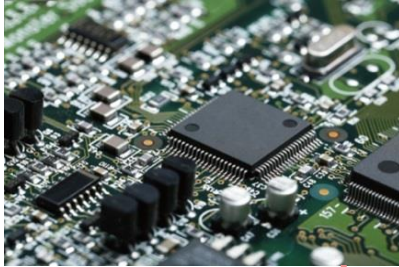
イミダゾール

■ 当社イミダゾール類の用途



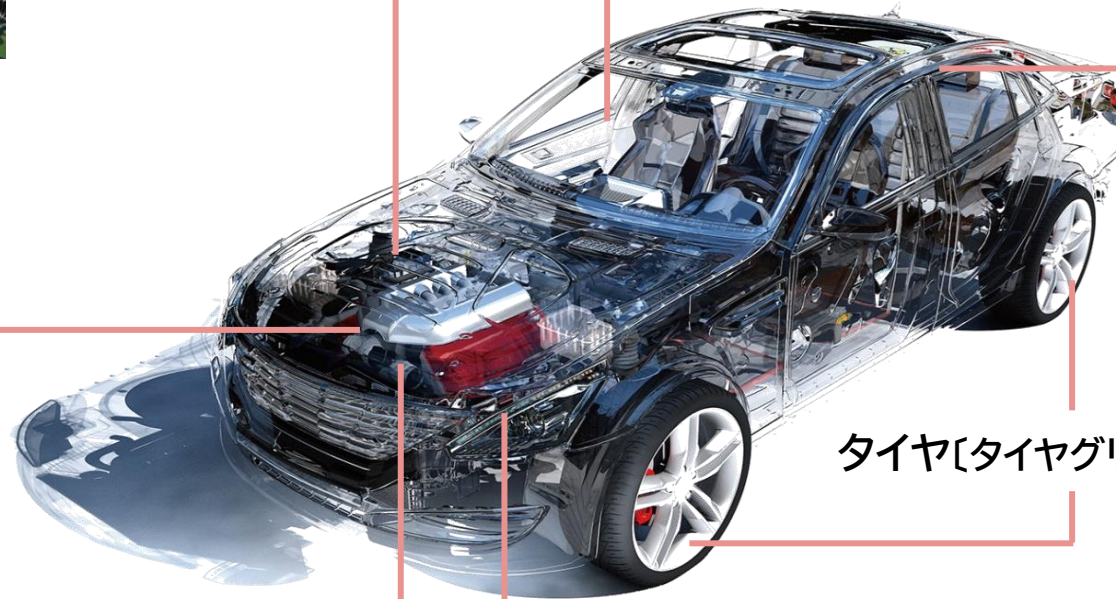
## エンジンのCPU

[積層板、封止材、ソルダーレジストインク]



## ボンネット

[CFRP(強化炭素繊維)]



## カーナビ[液晶シール材]



## 骨組み部

[構造用接着剤]

## 電装モーター

[絶縁粉体塗料]



## タイヤ[タイヤグリップ向上薬剤]

エアークラス  
[アクリルゴム薬剤]



## ■ 機能材料類

- 当社における機能材料とは、電子機器類に使用されている半導体を始めとする電子部品の材料に配合することで様々な機能性を向上・付与できる製品(化合物)。
- 電子機器類の進化に伴い、使用される樹脂材料の特性向上(耐熱性や電気特性等)が求められており、当社の機能材料が検討される機会が増えている。
- 当社の機能材料の検討範囲は多岐にわたり、自動車や航空機等の構造材として使用される炭素繊維強化プラスチック(CFRP)でも、耐熱性や強度の向上を目的に検討が進んでいる。
- 近年、開発に力を入れている半導体プロセス材料は、半導体の超微細回路化に伴い、使用される材料合成の難易度が高まっているが、順調に新規案件を獲得している。
- 最先端材料の需要拡大を見込み新設された、新プラント「TAP-4」が2021年7月より稼働を開始した。  
この「TAP-4」は、低金属管理などの高い品質管理に対応した設備を持つ。
- 今後も、培った多彩な有機合成技術を活かし、高速大容量インフラ・5Gに貢献する低誘電材料など、新たな機能材料製品を研究開発していく。

■ TAP-4(徳島工場)



## ■ ベンゾオキサジン

- 耐熱性・難燃性・電気特性に優れた樹脂。
- 炭素繊維強化プラスチック(CFRP)や半導体の封止材向けで検討が進んでいる。

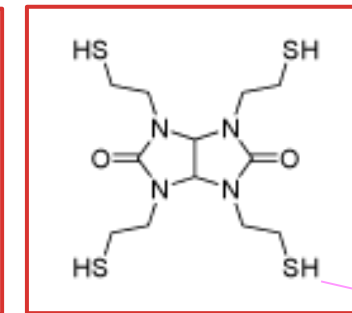
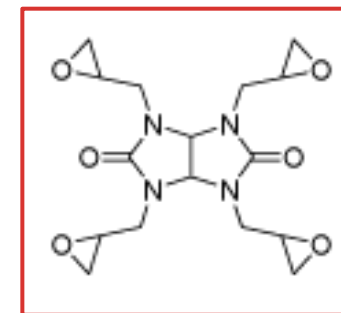
## ■ イソシアヌル酸誘導体

- 当社が蓄積してきたイソシアヌル酸合成技術を活用して開発した。
- 耐熱性・耐光性・透明性に優れ、様々な官能基を導入可能。封止材料などの改質剤に使用されている。

## ■ グリコールウリル誘導体

- 多官能・透明・高耐熱性の樹脂改質剤。  
4つの官能基を持ち、高架橋密度の硬化物が期待できる。
- 官能基にチオール基(-SH)を有する製品は、  
低温で速やかにエポキシ樹脂を硬化し、従来の改質剤と比べ、  
硬化した樹脂は耐湿性など様々な特性に優れる。
- 高性能化や小型化が進む電子材料分野で、採用されている。

■ グリコールウリル誘導体(一部)



チオール基

## ■ 新規密着性付与剤

- 樹脂に添加することにより、金属などの無機材料との密着性を改善することができる樹脂改質剤。  
従来の改質剤と同等以上の密着性が得られ、従来品の課題であった金属腐食性を改善できる。
- 電子部品に多く使われるエポキシ系をはじめ、ポリイミド系など幅広い樹脂材料へ展開を図っている。

建材事業

---

Housing Materials  
Operations

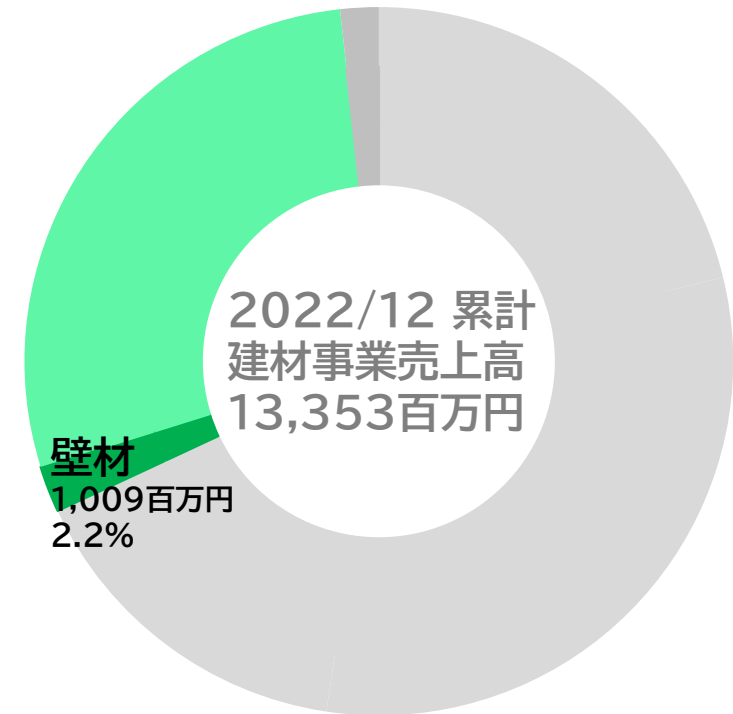
建材事業  
4. 壁材

---

Housing Materials Operations  
Interior, Exterior Finishes and Paving Materials

## 【主要製品】

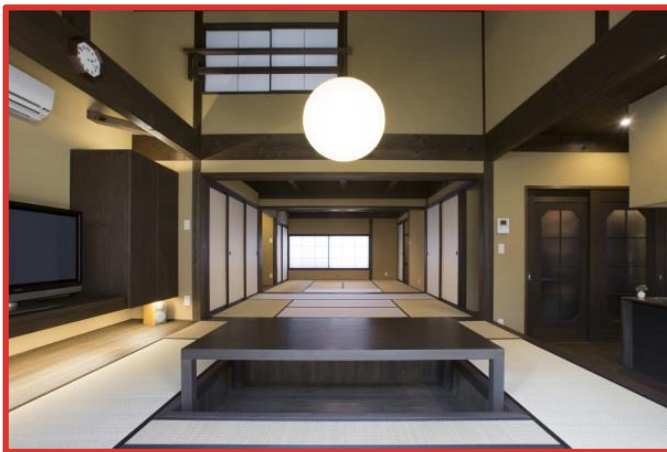
- 内装材(けいそう壁・自然素材壁)  
調湿機能、有害な化学物質や生活臭の  
吸着・分解機能をもつ塗り壁材
- 外装材  
住宅向け湿式外装材
- 舗装材  
天然石舗装材、リサイクルガラス舗装材  
ゴムチップ舗装材



□ 内装材

- 自社製化学糊料CMCの用途展開として開発した、塗り壁材における日本初の工業製品「JULUX(ジュラックス)」が発祥。
- 日本の伝統的な壁である聚楽壁は取り扱いが難しいが、当社の壁材は所定量の水を混ぜるだけで均一な品質を保つことができる。また、塗り壁はシックハウス症候群の原因となるホルムアルデヒドなどの化学物質やニオイを吸着する性能が高いため、改めて注目されている。
- 商業・公共空間設計やこだわりある注文住宅をターゲット市場とする高意匠性を特長とした商品展開を行っている。厚塗りを活かした立体感と多様な模様付けにより、空間に彩りと表情がもたらされる。

■ けいそうジュラックス土壁（内装材）



■ クレアデコール（内装材）



- 外装材・舗装材
  - 建物やエクステリアの外側を覆う「外装」、道路やアプローチの表面を覆い固める「舗装」にも展開。
  - 外装材はカラーを含め豊富なバリエーションがあり、表面のテクスチャーまで手作業で仕上げるため、微妙な表情が可能。舗装材では、天然石、天然砂、ゴムチップ等の素材を揃える。
  - 外装材・舗装材ではエクステリアの商流を活かし、相乗効果を生み出している。

■ 弾性パレットクリームHG（外装材）



■ リンクストーン S（舗装材）



建材事業  
5. エクステリア

---

Housing Materials Operations  
Exterior Products

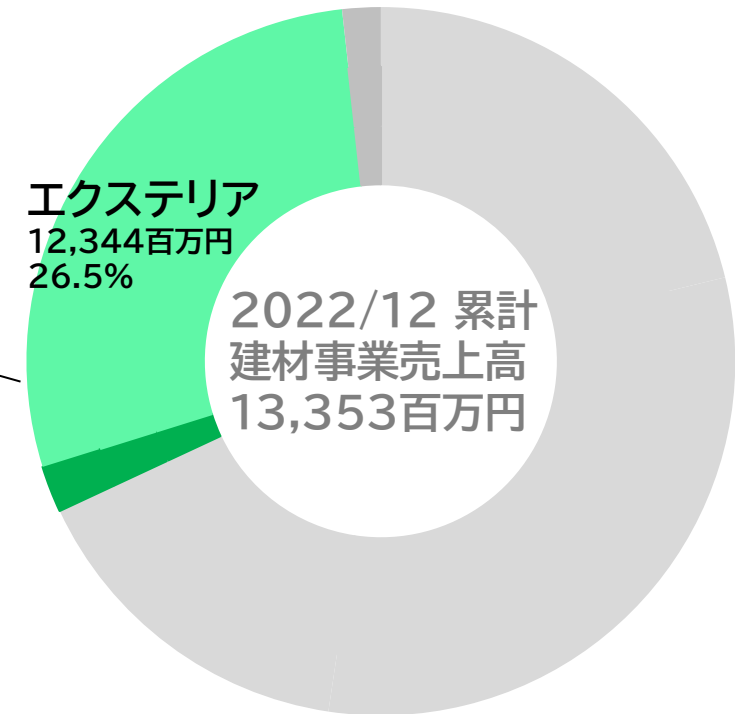


**【主要製品】**
**住宅エクステリア**

- 門扉・フェンス・カーポート・デッキ
  - アコーディオン門扉(伸縮門扉)
  - アートウォール(アルミ システム塀)
- } **業界初**  
当社開発品

**景観エクステリア**

- 大型門扉・フェンス・通路用シェルター・駐輪場
- ゴミ集積庫(**業界初** 当社開発品)
- 屋上緑化等



- 急速にモータリゼーションが進んでいた1972年、伸縮機構で簡単に開閉でき、日本の狭小な宅地事情にも応えた「アコーディオン門扉」を考案、車庫前門扉のスタンダードとなった。
- その後、一般門扉、車庫(カーポート)、フェンス、また、デッキ材やテラスなどに商品ラインナップを強化していった。
- 機能を重視しつつデザインにも注力しており、1984年にはエクステリア業界初の「Gマーク」(現在のグッドデザイン賞)を獲得した。
- フラットな木調の天井材を用いたシンプルで建物と一体感のあるデザインのテラス『ファンルーフ』が2019年度グッドデザイン賞を受賞した。

■ ファンルーフ(テラス)



■ マイポート 7 (カーポート)



■ クレディアコー (アコーディオン門扉)



景観エクステリア

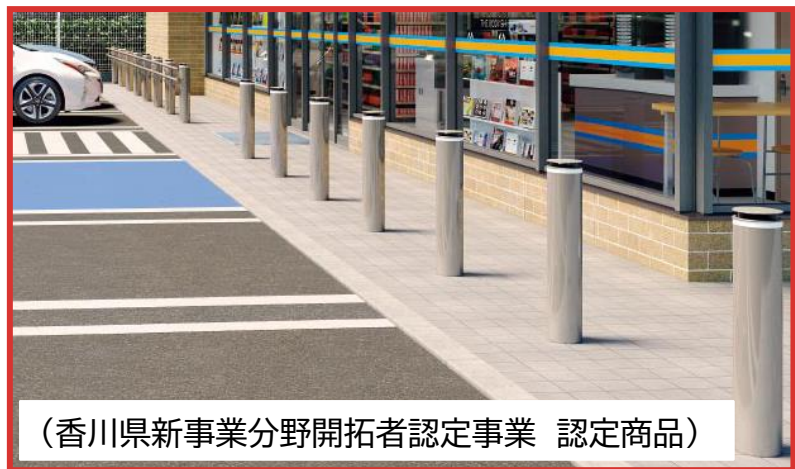
■ ライズルーフⅡ Lタイプ (通路用シェルター)



■ マイルーフ7(セブン) 駐輪場タイプ



■ GTパイル (高強度車止め)



■ ゴミストッカー PS型 (ゴミ集積庫)



- 昨今、台風など大規模な災害が全国で相次いでいることを踏まえ、当社は風雪に強い高強度のエクステリア製品のラインアップを充実し、拡販を進めている。
- 景観分野で培った強度基準・品質を全ての商品へ展開し、建築基準法に準拠した高い品質・強度の製品開発に取り組んでいる。
- 高強度商品のラインナップとして、大型フェンス、アーチウェイ、大型引戸、カーポートに加え、戸建住宅用フェンス、独立テラスの商品化を行っている。

■ 高強度大型フェンス GTFシリーズ



■ メリールーフ 積雪地用



■ マイポートOrigin 積雪地タイプ



■ 高強度大型引戸 スタックラインGT



■ 独立テラス スマートトップ 高強度用



長期ビジョン Challenge 1000

---

Long-term Vision Challenge 1000

化学品事業 ▶ 世界の進歩のために、進化と深化を続ける事業

ありたい姿

戦略シナリオ

無機

取り扱いが難しい素材を循環的に活用し、世界の技術革新、環境保全に貢献する事業

硫黄取り扱い技術、合成反応評価技術を蓄積。硫黄活用を起点として新たな価値を創出し、事業領域を拡大する。

有機

環境・衛生を守り、世界中の人にキレイを届ける事業

水環境・衛生などの社会課題に応じて顧客ニーズを先取りし、独自技術やサービスで殺菌・洗浄の最適な提案を実現する。

ファイン

独自技術による高機能な製品を提供し、技術の発展に貢献する

ニーズを先取りして独自性があるテーマを確立し、有望顧客とともに技術を確立する。蓄積した独自技術をもとに高機能な製品を開発。

新技術で世界のスタンダードを創出

市場動向を見据えたテーマを設定し、強みを活かした製品開発を行う。顧客目線のトータルソリューションを提案していく。

建材事業

未来の暮らしをデザインし、  
笑顔でらせる世界の街づくりに貢献

建材

ありたい姿

未来の暮らしをデザインし、  
笑顔でらせる世界の街づくりに貢献

価値提供プロセス

デザイン性と機能性を追求した独創的な製品で  
国内外の多様な人財やエンジニアをひきつけ、  
獲得する  
独自の製品カテゴリーで提携推進、世界に展開

■ 2030年にありたい姿の実現に向け6つの全社変革方針を設定し、全グループを挙げて推進していく。

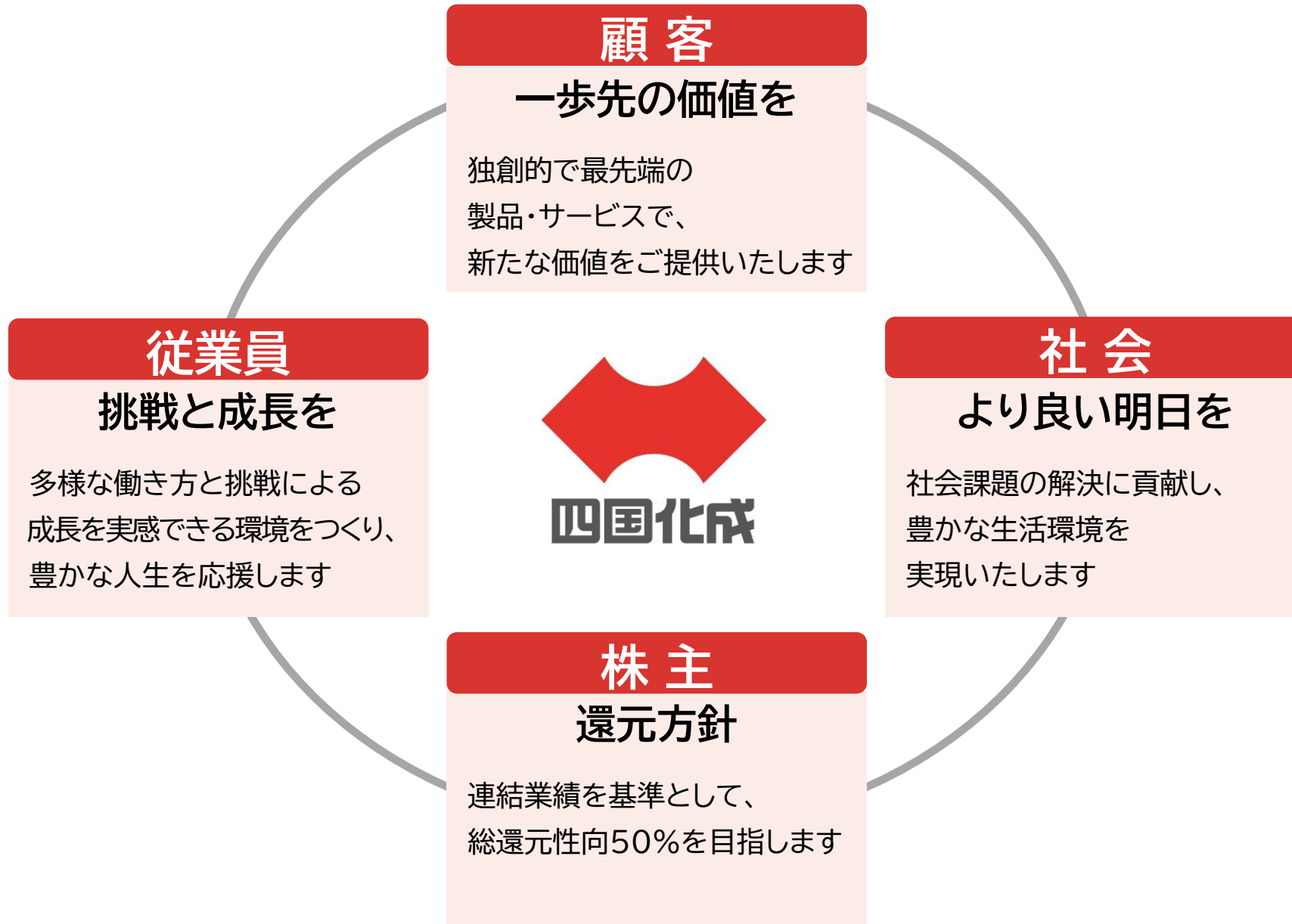
<b>2030年にありたい姿</b>	<b>独創力で、“一步先行く提案”型企业へ</b> 独創的なアイデアで社会課題を解決し、世界をリードする		
<b>全社変革方針</b>	<b>①価値づくり</b>	<b>②余力づくり</b>	<b>③拠点づくり</b>
	<p style="text-align: center;"><b>ブランド価値の向上と新しい事業への挑戦</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 四国化成品質の向上</li> <li>● 新規事業やそのアイデアを誰もが提案し挑戦できる仕組みを確立</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>変革リソース確保に向けた効率化実現</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 無駄の排除と業務の簡素化・標準化</li> <li>● IT等の技術活用による効率化</li> <li>● 人員の最適配置と働き方の見直し</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>世界への足場づくりと世界展開の加速</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 全社拠点戦略の策定</li> <li>● 国内での生産・開発・販売拠点の最適化</li> <li>● 海外での生産・開発・販売拠点の最適化</li> </ul>
	<b>④組織づくり</b>	<b>⑤風土づくり</b>	<b>⑥人財づくり</b>
	<p style="text-align: center;"><b>ビジョン実現に向けたグループガバナンス体制の確立</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 最適なグループガバナンス体制の構築</li> <li>● 海外展開に対応したグループガバナンス体制の確立</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>多様性を認め、挑戦を後押しする風土の醸成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● “提案型スタイル”の従業員への浸透</li> <li>● “提案型”を育てる風土の醸成</li> <li>● 多様な働き方に対応した就労環境の整備</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>個人の挑戦を促し、公正に評価する仕組みの構築</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 求める人財を惹きつける採用の仕組み確立</li> <li>● 一人ひとりを尊重した成長の場づくり</li> <li>● 評価体系改定と運用強化</li> </ul>



## 進捗状況（全社変革方針）

- 多様な働き方に対応する基盤づくり、自ら変革していくという意識の醸成や仕組みづくりに取り組んでおり、概ね計画通りに進んでいる

項目	トピックス
価値づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ブランド価値の向上(四国化成品質を策定)</li> <li>◆環境に対する取り組みの強化(CSR報告書の作成)</li> <li>◆新規事業創出に向けた取り組みの実施(社内公募の実施)</li> </ul>
余力づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆テレワークの推進等、業務の効率化への取り組みを実施</li> <li>・働く場所にとらわれず、効率的な働き方ができるテレワークを推進</li> <li>・インフラ整備の充実</li> </ul>
拠点づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆生産拠点の最適化</li> <li>・壁材生産拠点を徳島工場吉成事業所に移転</li> </ul>
組織づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆目指すべき組織体制決定に向けた準備の実施</li> <li>・持株会社体制への移行</li> </ul>
風土づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆長期ビジョンの浸透、部門間の壁をなくす交流活動を実施</li> <li>・ワークショップ、座談会等イベントの開催</li> </ul>
人財づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆社員が積極的に挑戦できるような環境を整備</li> <li>・加点方式の挑戦目標を導入など、評価制度の見直し</li> </ul>



## 免責事項

# Disclaimer

- ◆本資料は、株主・投資家などの皆さまに当社の経営方針、計画、財務状況などの情報をご理解いただくことを目的としており、当社の株式の購入、売却など、投資を勧誘するものではありません。
- ◆本資料に掲載されている情報は細心の注意を払って掲載しておりますが、掲載された情報の内容が正確であるか、更新時期が適切かどうかなどについて一切保証するものではありません。また、掲載された情報またはその誤りなど、本資料に関連して生じた損害または障害などに関しては、その理由の如何に関わらず、当社は一切責任を負うものではありません。
- ◆本資料に掲載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績などに関する見通しであり、これらは、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいており、リスクや不確定な要因を含んでいます。実際の業績は、さまざまな要因により、これら業績などに関する見通しとは大きく異なることがあり得ます。
- ◆以上のことをご理解いただき、投資に関する決定をされる場合には、当社が発行する有価証券報告書などの資料をご覧くださいなどとして、ご自身の判断で行われるようお願い致します。

お問い合わせ先  
四国化成ホールディングス株式会社 経営企画室  
TEL:0877-21-4119  
<https://www.shikoku.co.jp>